

K141.71

4

1



高等
小學圖畫

第一學年 教師用



K141.71

4

1

文 部 省

高等
小學圖畫

第一學年教師用



文 部 省

編纂趣旨

總 說

1. 高等小學圖畫は、尋常小學圖畫に連続して、觀察・表現・鑑賞等の能力を高め、實生活に適切な美的陶冶をなすことを以て要旨とする。
2. 高等小學圖畫は、教材の選擇に留意し、表現に於ては特に和洋の様式にこだはることなく、専ら兒童の性能を自由に伸ばすことに力めた。
3. 各學年の教授週數を四十とし、毎週の教授時數を一時間として、これに相當する分量の教材を配當した。
4. 高等小學圖畫は、これを教師用と兒童用とに分けた。教師用は、各學年一冊づつ、合計二冊とし、兒童用は、各學年ともに男兒用と女兒用とに分け、各一冊づつ、合計四冊とした。第三學年用は、別にこれを編纂する。
5. 教師用は、各學年に於ける指導の要領、並びに全教材の取扱方を説き、更にこれに參考の圖畫を掲げた。
6. 兒童用は、教師用の活用によつて、始めてその機能を完うするものである。

教 材

1. 教材は、専ら兒童の趣味と理解とに準據して、美的要素に富み、實生活に適切で、且つ國民性の涵養に資するものを、出来るだけ廣い範圍から選んだ。

2. 教材を、表現・鑑賞・説話の三つに分けた。鑑賞と説話とは、表現に關聯して課するのを本體とするが、特に重要な事項に就いては、別に課を設けた。
3. 指導の便宜上、圖畫を思想畫・寫生畫・臨畫・圖案・用器畫に分けた。各學年ともに寫生畫・圖案及び用器畫に重きを置き、これに若干の思想畫と臨畫を加へた。
4. 教材は、力めて各地方に共通なものを採り、實施の容易を期したが、土地の情況によつては、便宜これを變更し、又はその排列を繰替へてもよい。

材料・用具

1. 用紙は、畫用紙を本體とするが、日本紙その他適當なものを用ひさせてもよい。紙の大きさは、主として教材の如何によつて定めらるべきものである。教師用にはたゞ大體の標準を示して置いた。
2. 描寫には、主として鉛筆・水彩の具・墨及び毛筆を使はせるが、適宜、クレヨン類、インキ及びペン等を用ひさせてもよい。
3. 水彩の具は、朱色（バーミリオン）・紅色（クリムゾン レーキ）・空色（コバルト ブリュエ）・藍色（インディゴ）・黄色（クローム エロー）・淡黄色（レモン エロー）・黄土色（エロー オーカー）・綠色（ビリヂャン）・代赭色（ライト レッド）・灰色（バーント シェンナ）・黑色（アイボリー ブラック）・白色（チャイニーズ ホワイト）の十二色を使はせるがよい。
4. 用器畫及び圖案には、尺度・三角定規・コンパス等を併せ用ひさせる。

指 導

1. 教科書を活用し、個人指導に重きを置き、兒童の性能を自由に發揮することに力むべきである。但し徒に放任に失してはならない。
2. 各學年に於て、指導上特に力を注ぐべき點は、大體次の通りである。

第一學年 形狀及び明暗に對する觀察を深め、色彩に對する觀念を明確にし、確實な表現を重んずる。

第二學年 實生活との關係を一層密接ならしめ、性能に應じた美的陶冶をなし、個性の伸展に力める。

目 録

第一學年の指導要領

男 児 の 部

第 一 學 期

第 一 課	書物……………寫生畫(二時間)	第 一 圖	(男第一圖)書物
第 二 課	花瓶……………寫生畫(二時間)	第 二 圖	(男第二圖)花瓶
第 三 課	土瓶……………寫生畫(二時間)	第 三 圖	(男第三圖)土瓶
第 四 課	コップに花……………寫生畫(二時間)	第 四 圖	(男第四圖)コップに花 其の一
		第 五 圖	コップに花 其の二
第 五 課	果物と壺……………寫生畫(二時間)	第 六 圖	(男第五圖)果物と壺
第 六 課	野菜……………寫生畫(二時間)	第 七 圖	(男第六圖)野菜
第 七 課	海邊の朝……………臨 畫(二時間)	第 八 圖	(男第七圖)海邊の朝
第 八 課	風景スケッチ……………寫生畫(一時間)	第 九 圖	(男第八圖)風景スケッチ

第 二 學 期

第 九 課	夏の夕暮……………思想畫(二時間)	第 十 圖	(男第九圖)夏の夕暮
第 十 課	昆蟲……………寫生畫(二時間)	第 十 一 圖	(男第十圖)昆蟲
第 十 一 課	ペン皿……………圖案・用器畫(三時間)	第 十 二 圖	(男第十一圖)ペン皿 其の一
		第 十 三 圖	ペン皿 其の二
第 十 二 課	校舎……………寫生畫(二時間)	第 十 四 圖	(男第十二圖)校舎
第 十 三 課	家のある風景……………寫生畫(三時間)	第 十 五 圖	(男第十三圖)家のある風景 其の一
		第 十 六 圖	家のある風景 其の二
第 十 四 課	年賀狀……………圖案・說話(三時間)	第 十 七 圖	(男第十四圖)年賀狀 其の一
		第 十 八 圖	年賀狀 其の二

第 三 學 期

第 十 五 課	靜物……………寫生畫(三時間)	第 十 九 圖	(男第十五圖)靜物 其の一
		第 二 十 圖	靜物 其の二
第 十 六 課	配色に就いて……………說話・鑑賞(一時間)	第 二 十 一 圖	(男第十六圖)配色圖
第 十 七 課	レッテル……………圖 案(三時間)	第 二 十 二 圖	(男第十七圖)レッテル
第 十 八 課	筆立……………圖案・用器畫(三時間)	第 二 十 三 圖	(男第十八圖)筆立 其の一
		第 二 十 四 圖	筆立 其の二

女 児 の 部

第 一 學 期

第 一 課	書物……………寫生畫(二時間)	第二十五圖	(女第一圖)書物
第 二 課	花瓶……………寫生畫(二時間)	第二十六圖	(女第二圖)花瓶
第 三 課	花……………寫生畫(二時間)	第二十七圖	(女第三圖)花 其の一
		第二十八圖	花 其の二
第 四 課	手提……………圖 案(三時間)	第二十九圖	(女第四圖)手提 其の一
		第三十圖	手提 其の二
第 五 課	茶器……………寫生畫(三時間)	第三十一圖	(女第五圖)茶器
第 六 課	海邊の朝……………臨 畫(二時間)	第三十二圖	(女第六圖)海邊の朝
第 七 課	風景スケッチ……………寫生畫(一時間)	第三十三圖	(女第七圖)風景スケッチ

第 二 學 期

第 八 課	夏の夕暮……………思想畫(二時間)	第三十四圖	(女第八圖)夏の夕暮
第 九 課	昆蟲……………寫生畫(二時間)	第三十五圖	(女第九圖)昆蟲

第 十 課	菓子皿……………圖案・用器畫(三時間)	第三十六圖	(女第十圖)菓子皿 其の一
		第三十七圖	菓子皿 其の二
第 十 一 課	校舎……………寫生畫(二時間)	第三十八圖	(女第十一圖)校舎
第 十 二 課	果物……………寫生畫(二時間)	第三十九圖	(女第十二圖)果物 其の一
		第四十圖	果物 其の二
第 十 三 課	配色に就いて……………説話・鑑賞(一時間)	第四十一圖	(女第十三圖)配色圖
第 十 四 課	座蒲團……………圖 案(三時間)	第四十二圖	(女第十四圖)座蒲團
第 三 學 期			
第 十 五 課	靜物……………寫生畫(三時間)	第四十三圖	(女第十五圖)靜物
第 十 六 課	レ ッ テ ル……………圖 案(三時間)	第四十四圖	(女第十六圖)レ ッ テ ル
第 十 七 課	食器……………圖案・用器畫(四時間)	第四十五圖	(女第十七圖)食器 其の一
		第四十六圖	食器 其の二

高等小學圖畫 第一學年 教師用

第一學年の指導要領

指導の方法 高等小學校第一學年に於ては、尋常小學校に於て陶冶した觀察・表現・鑑賞等の能力を一層進め、特に形狀及び明暗の觀察を深め、色彩の觀念を明確にし、且實生活との連絡を密にし、應用の力を養ふことに力むべきである。

寫生畫に於ては、特に對象をよく觀察し、確實に表現させることに力める。臨畫は出来るだけ丁寧に畫かせ、思想畫は構想を重んずると共に、技法にも十分注意させる。

圖案に於ては、創作力を練り、用器畫及び手工・家事等の教科と連絡して、應用に重きを置き、實生活に適切ならしめる。

用器畫に於ては、圖案と連結した製圖を課し、讀圖力を養ふと共に、正確に、美的に畫かせる。

材料・用具 用紙は、白の畫用紙がよいが、畫くものによつては、木炭畫紙・色畫用紙・日本紙等を使はせてもよい。大きさは、畫用紙九つ切から四つ切までを標準とする。

鉛筆は硬軟二種を、場合に應じて適當に使はせるがよい。

水繪の具は、編纂趣旨に示す十二色を使はせるがよい。

墨は、なるべくその都度磨つたものを用ひさせるがよい。

毛筆は、相當に太い筆がよく、穂の腰のあまり弱いものは避けしめる。但し特に細い線を畫く場合には、書方細字用の小筆を使はせるがよい。

以上の外、適當なパレット・筆洗・布片・消ゴム・羽帚、及び用器畫や圖案には、尺度・三角定規・コンパス等を要する。

屋内寫生のモデルは、相當に大きいものを準備し、なるべく適當なモデル臺を備へて、觀察に便するがよい。

屋外寫生には、特に畫板・腰掛、及び水の用意が大切である。畫板は、用紙よりも稍大きい、木製又は板紙製がよい。腰掛は、普通のものでもよいが、三脚を備へることが出来れば、一層便利である。水は、適當な容器になるべく澤山用意するがよい。

この外、參考品、留紙・色白堊・教鞭等を要する。

男 児 の 部

第 一 學 期

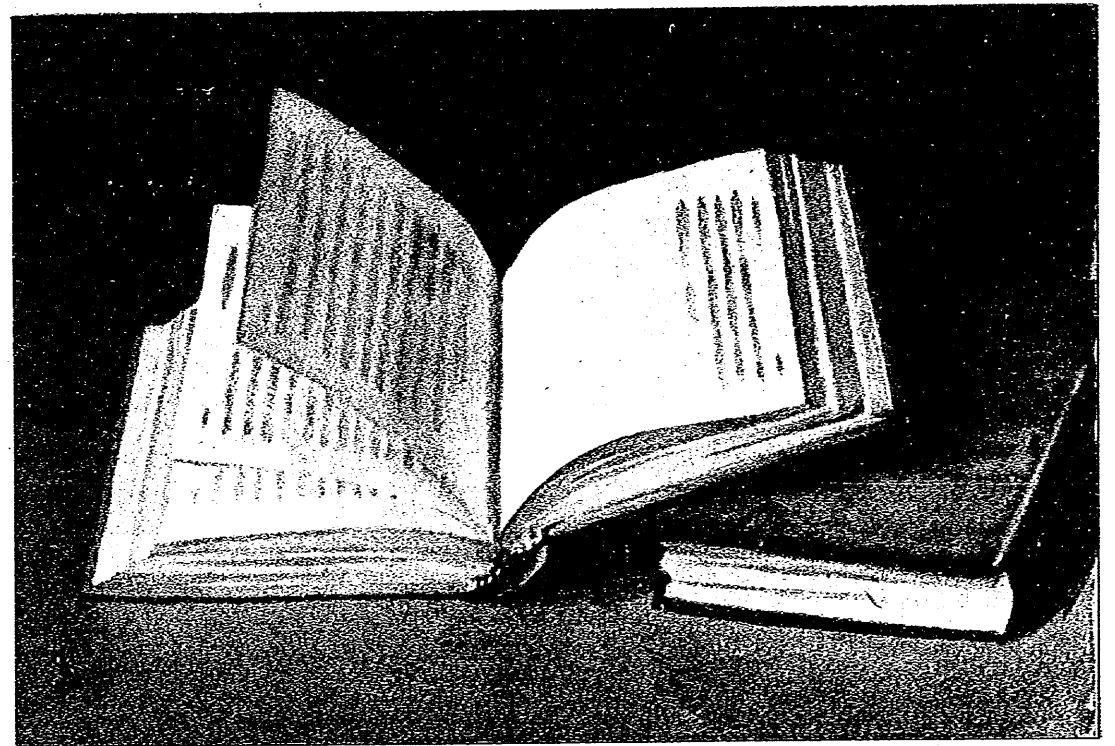
第一課 書 物 寫生畫 二時間

要旨 書物を畫かせて、構圖を考へ、遠近による形の變化を觀察させ、表現力を養ふ。

準備 書物。

- 指導
1. 第一圖（男第一圖）を鑑賞させ、特に構圖・形狀・明暗・色彩等に就いて知らせる。
 2. 書物を適當な場所に置き、形（開いた場合、閉じた場合）及び組合はせを整へさせる。
 3. 形狀・明暗・色彩に就いて觀察させる。
 4. 位置を考へ、遠近による形の變化をよく觀察して、輪廓を取らせる。
 5. 任意な方法によつて仕上げさせる。

- 備考
1. モデルは、なるべく大きくて、厚く、色の美しいものを選ぶがよい。
 2. 形狀・明暗・色彩の觀察を確實にさせるべきである。
 3. 文字を現す場合には、よく面にそひ、且大體の感じを出す程度に止めさせるがよい。



第一圖（男第一圖）書物

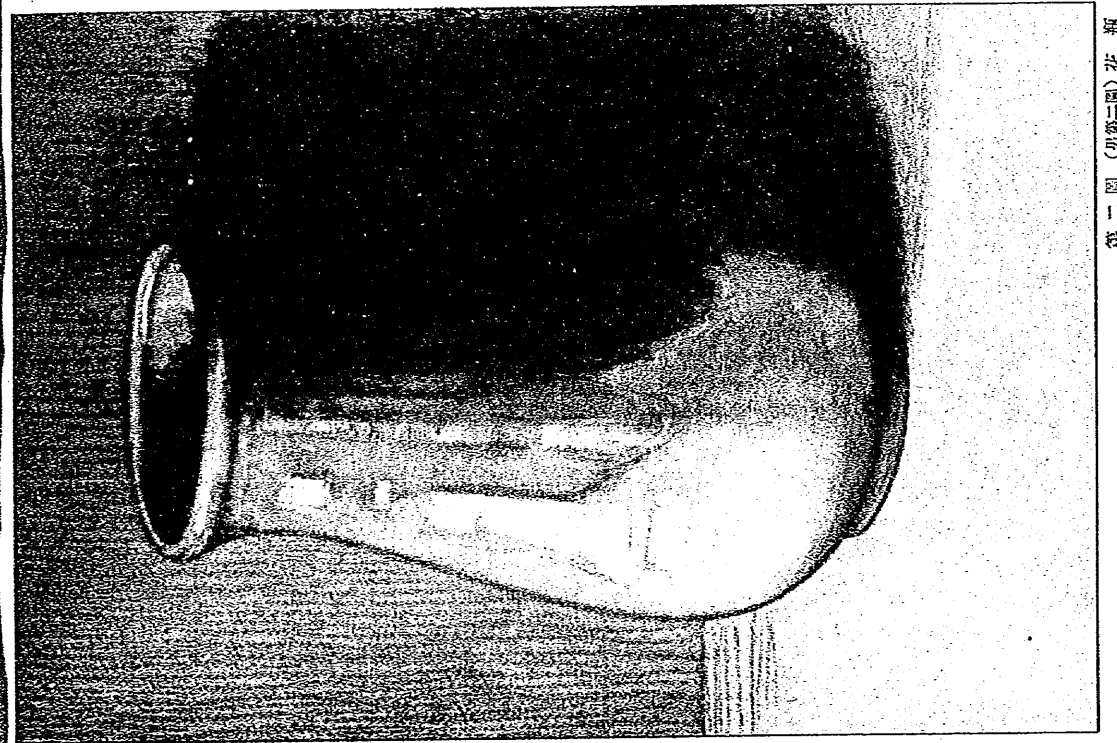
第二課 花 瓶 寫生畫 二時間

要旨 花瓶を畫かせて、形狀及び明暗の變化を觀察させ、質の感じを現す力を養ふ。

準備 花瓶。

- 指導 1. 第二圖（男第二圖）を鑑賞させ、形狀・明暗・色彩及び筆觸等に就いて知らせる。
2. モデルを適當な場所に置き、その形狀・明暗・色彩等をよく觀察させ、且質の感じに注意させる。
3. 位置よく、正しく輪廓を取らせる。
4. 任意の方法で仕上げさせる。

- 備考 1. 花瓶は、左右相稱形で、なるべく模様のない、形の大きいものがよい。
2. 特に、輪廓の修正に力を注がしむべきである。
3. 明暗・陰影の大きい調子に注意して、立體及び質の感じを現すことに力めさせる。



第二圖（男第二圖）花瓶

第三課 土 瓶 寫生畫 二時間

要旨 土瓶を畫かせて、形狀及び明暗の變化を觀察させ、質の感じを現す力を養ふ。

準備 土瓶。

- 指導 1. 第三圖（男第三圖）を鑑賞させて、形狀・明暗・色彩・筆觸等を理解させる。
2. モデルを適當な場所に置き、各部の形狀・明暗・色彩等を觀察させ、且質の感じに注意させる。
3. 構圖を考へて、正しく輪廓を取らせる。
4. 大體を整へた後、仕上げさせる。
- 備考 1. 第三圖のやうに、土瓶と茶碗を組合はせる場合には、方向及び位置に注意させるがよい。
2. 各部の形狀及び割合・曲度等に注意して、輪廓を取らせるがよい。
3. 特に口・蓋・つるの形、及び全體の明暗・質の感じ等に注意して、畫かせるがよい。



第三圖（男第三圖）土 瓶

第四課 コップに花 寫生畫 二時間

要旨 コップに挿した花を畫かせて、觀察力と表現力とを練る。

準備 コップ・花。

指導 1. 第四圖（男第四圖）を鑑賞させ、特に透明なコップと水、水中にある枝の曲折の現し方を理解させる。

2. 花をコップに挿し、形を整へた後、適當な場所に置かせる。

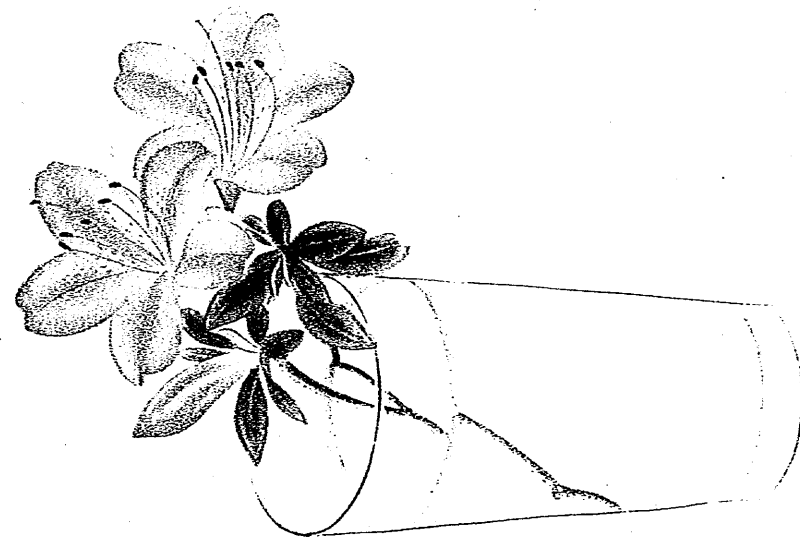
3. 位置を考へ、大きさ・割合・曲度等をよく觀察して、正しく輪廓を取らせる。

4. 任意の方法で仕上げさせる。

備考 1. 第四圖はつゝじを、第五圖はあざみを、各變つた方法で現したものであるが、兒童には自由な方法で畫かせるがよい。

2. 第一時に輪廓と花とを畫き、第二時に残りを仕上げさせるがよい。

3. 特にコップの形、及び花の姿態等に注意させるがよい。





第五圖 コップに花束の二

第五課 果物と壺 寫生畫 二時間

要旨 果物と壺を畫かせて、その組合はせ方、及び觀察力と表現力とを練る。

準備 果物・壺。

指導 1. 第六圖（男第五圖）を鑑賞させ、構圖及び表現法を味はせる。

2. モデルを適當な場所に、よい組合はせに配置させる。

3. 形狀・明暗・色彩を觀察し、構圖を考へて、輪廓を取らせる。

4. 任意な方法で、手願よく仕上げさせる。

備考 1. モデルの選擇に當つては、形狀及び色彩の釣合に注意を要する。

2. 果物・壺・桌面・背景等の色彩・調子に注意して畫かせるがよい。

3. 保存に困る果物は、便宜第一時に全體の輪廓を取つて、先づ果物から仕上げさせ、第二時に残りを畫かせるがよい。



第六圖（男第五圖）果物と壺

第六課 野 菜 寫生畫 二時間

要旨 野菜を畫かせて、その特性を觀察し、表現の力を練る。

準備 野菜。

指導 1. 第七圖（男第六圖）を鑑賞させ、きうりやトマトの特性の現し方、及び構圖・形狀・明暗・色彩等を味はせる。

2. モデルを適當な場所に、よい組合はせに配置させる。

3. モデルの特性・形狀・明暗・色彩等をよく觀察させる。

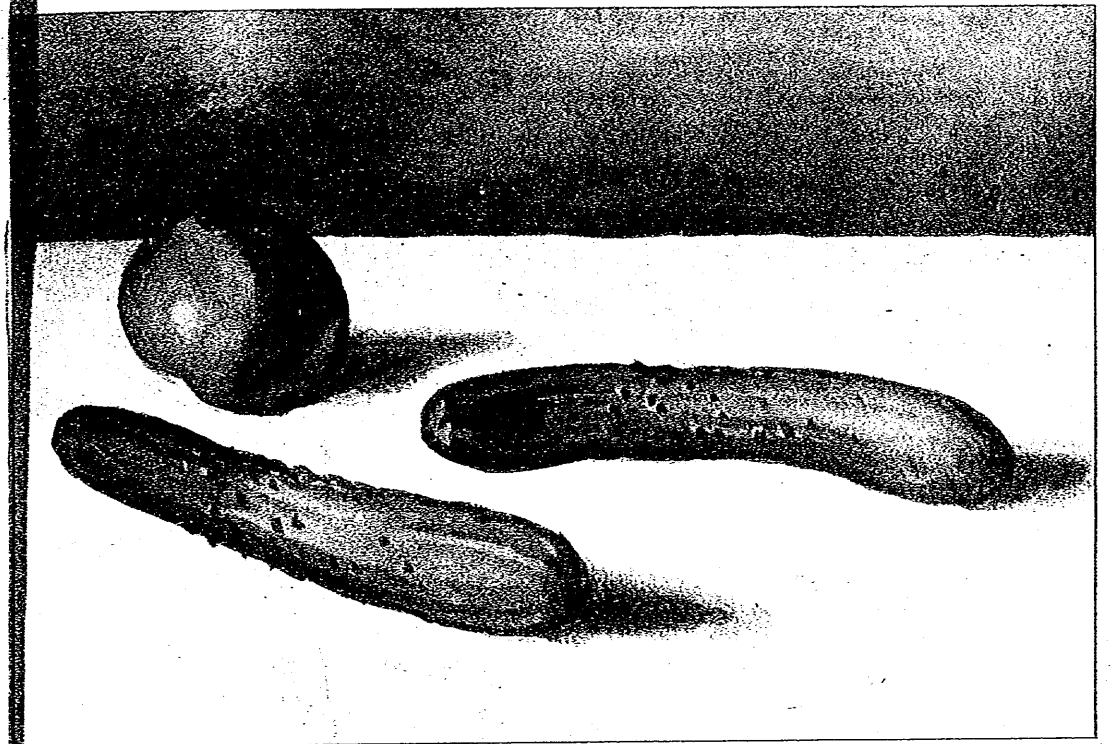
4. 構圖を考へ、位置よく、正しく輪廓を取らせる。

5. 適當な方法で表現させる。

備考 1. モデルに使ふ野菜は、形狀・色彩・大きさ等の變化を考へて、配合のよいものを選ぶがよい。

2. 稍見下すやうな位置に置いて、畫かせるがよい。

3. モデルが次の時間までに傷まないやう、保存に注意を要する。



第七圖（男第六圖）野 菜

第七課 海 邊 の 朝 ・ 臨 畫 二時間

要旨 「海邊の朝」を畫かせて、鑑賞力と表現力を高める。

指導 1. 第八圖（男第七圖）を鑑賞させ、朝日に照らされてゐる穏かな感じ、及び光・色等の現し方を味はせる。

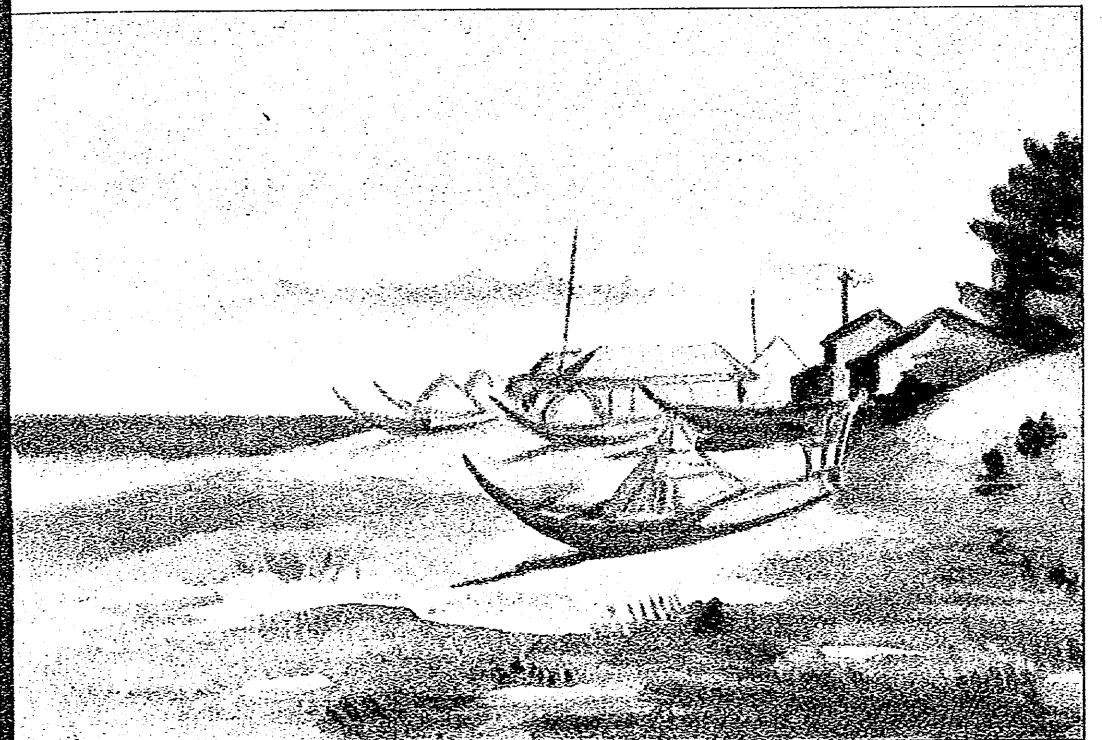
2. 輪廓を取らせる。

3. 色調・筆調等に注意して、手順よく仕上げさせる。

備考 1. 第八圖は、靜岡縣三保の朝景色を畫いたものである。

2. なごやかな朝の光の中に、豊かな色彩の變化があるから、それに注意して畫かせるがよい。

3. 便宜、風景畫に於ける省略の要領に就いて、指導するがよい。



第八圖（男第七圖）海邊の朝

第八課 風景スケッチ 寫生畫 一時間

要旨 風景スケッチをさせて、感じを主とし、簡明に速寫する力を養ふ。

指導 1. 第九圖（男第八圖）を鑑賞させ、場所の選び方、遠近による形及び色の變化等、省略描寫の要領に就いて知らせる。

2. 必要な材料・用具を持つて、スケッチする場所に行かせる。

3. 適當な場所を選定させる。

4. 構圖をきめて、手早く畫かせる。

備考 1. 第九圖の上は阿蘇山を、下は琵琶湖をスケッチしたものである。

2. この教材は、夏季休暇に於ける、自由スケッチの基礎陶冶をするために採つたものであるから、そのつもりで指導するがよい。

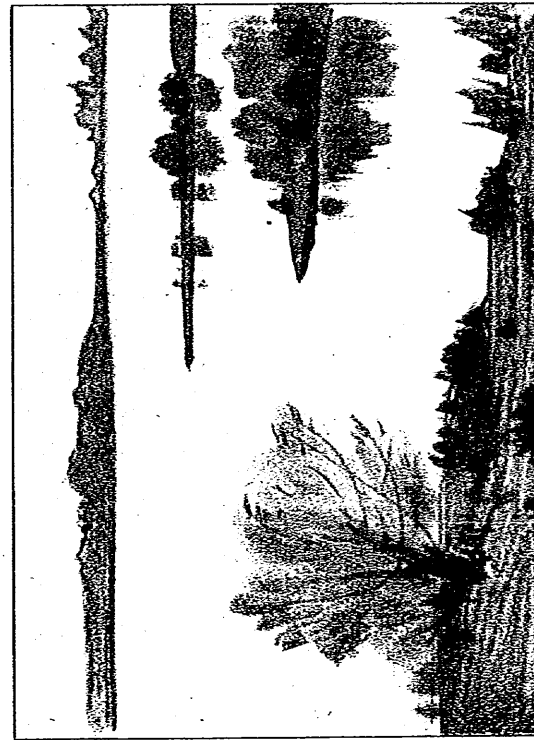
3. スケッチブック、又はその代用になるものを持たせるが便利である。

4. 暑い時であるから、なるべく日陰で畫かせるがよい。

5. 細部の形や色に拘泥して全體の感じを失はないやうに、注意させるがよい。

6. 畫面に於ける地平線の位置に、注意させるがよい。

7. 一枚に限らず、何枚も畫かせるがよい。



第九圖（男第八圖）風景スケッチ

第 二 學 期

第九課 夏の夕暮 思想畫 二時間

要旨 夏の夕暮を畫かせて、構想力を練り、思想の發表をさせる。

指導 1. 題目を豫告して、夏の夕暮の情景を觀察させて置く。

2. 第十圖（男第九圖）を鑑賞させ、河畔に於ける夕暮の明暗・色彩・感じ等を味はせる。

3. 如何に現すべきかを考へさせる。

4. 輪廓を取り、色で仕上げさせる。

備考 1. 第十圖は、河邊の夕暮を想起して畫いたものであるが、畫く場面は、景色に限らず自由に選ばせるがよい。

2. 夏の夕暮の感じを現すことに力めさせる。



第十圖（男第九圖）夏の夕暮

第十課 昆 蟲 寫生畫 二時間

要旨 昆蟲を畫かせて、その特性を觀察し、精密描寫の力を練る。

準備 昆蟲。

指導 1. 第十一圖（男第十圖）を鑑賞させ、昆蟲の特性・形狀・明暗・色彩等に就いて、表現の要領を知らせる。

2. モデルを適當な場所に置き、その形狀・明暗・色彩等をよく觀察させる。

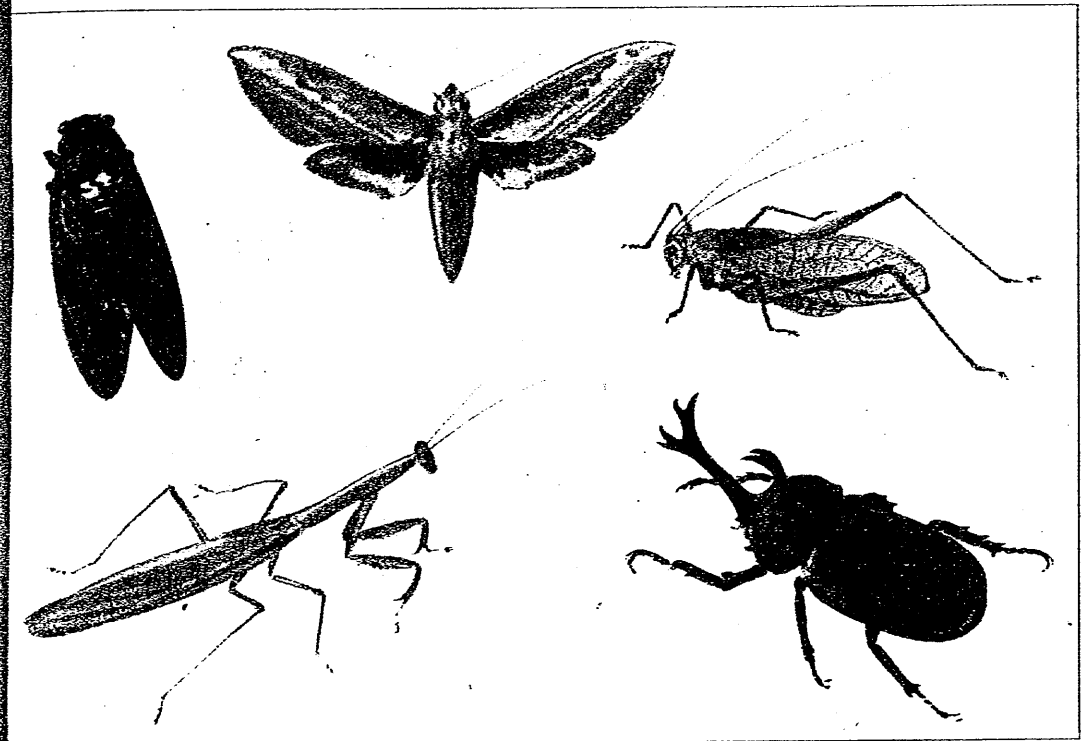
3. 輪廓を正しく取らせる。

4. 手順よく、色で仕上げさせる。

備考 1. 第十一圖の上は、左からあぶらぜみ、きいろすゞめが、くつむしを、下はおほかまきり、かぶとむしを畫いたものである。あぶらぜみ及びきいろすゞめがは標本を、その他は生きたものを寫生したものである。

2. 昆蟲は、豫告して各自に採集させたものを畫かせるもよいが、時宜により、理科の標本、又は特に寫生用として準備したものを畫かせるもよい。あまり小さいものは避けさせる。

3. 一つだけを、大體實物大に、正確且精密に畫かせるがよい。



第十一圖（男第十圖）昆 蟲

第十一課 ペン皿 圖案・用器畫 三時間

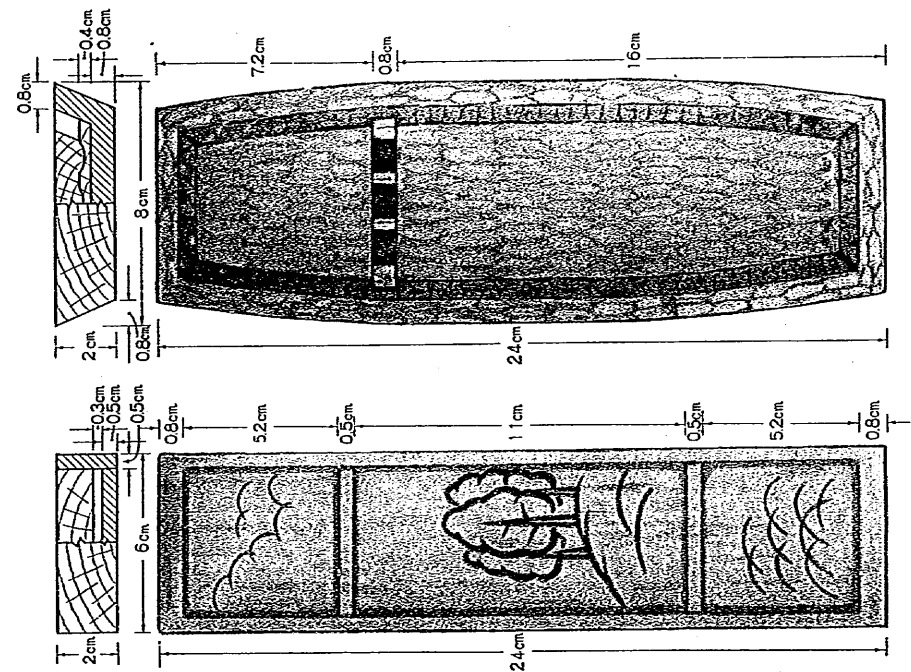
要旨 ペン皿を畫かせて、考案を練り、製圖の力を養ふ。

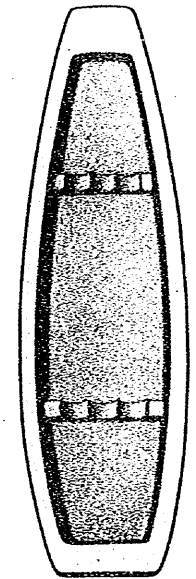
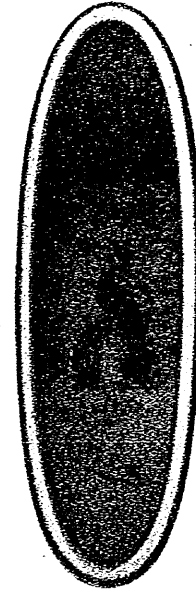
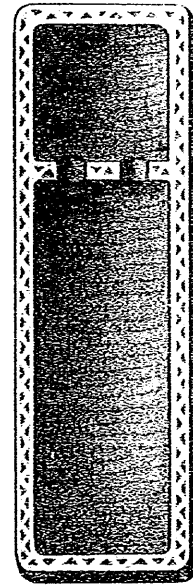
準備 ペン皿。

- 指導 1. 第十二圖（男第十一圖）、及びペン皿の標本を觀察させて、形狀・構造、並びに正面圖・平面圖の關係、斷面の現し方、寸法の示し方等を明らかにする。
2. 形狀・構造・裝飾等に就いて、考案の要件を知らせる。
3. 考案を練らせる。
4. 縮尺、製圖の順序・方法を考へさせる。
5. 淡く下圖を整へてから、仕上げさせる。

- 備考 1. 第十二圖は、二つとも木製、第十三圖は、左から木製、銅の打出、陶器のペン皿を示したものである。
2. 第十二圖には、二つの例が示してあるが、兒童には一つを畫かせればよい。
3. 用途・材料・製作法を考へて、形狀・裝飾を美しく考案するやうに力めさせる。
4. 製圖は、形狀・構造・寸法等を明確に現すべきは勿論であるが、又美といふことも大切であるから、圖の位置・大きさ、線の強さ、記入する文字等にも十分注意せしむべきである。

皿
の
く





第十三圖 ペン風 其の二

第十二課 校 舎 寫生畫 二時間

要旨 校舎の一部を畫かせて、觀察力と表現力とを高める。

準備 屋外寫生用具。

指導 1. 第十四圖（男第十二圖）を鑑賞させ、遠近による形の變化、明暗及び色彩の變化、省略の要領等を知らせる。

2. 屋外寫生に必要な材料・用具を持つて、寫生する場所に行かせる。

3. 適當な場所を選定させる。

4. 構圖を考へ、遠近に注意して、正しく輪廓を取らせる。

5. 任意な方法で、手順よく仕上げさせる。

備考 1. 題目を豫告して、畫く場所を選定させて置くもよい。

2. 特に校舎の遠近を、正しく畫くことに力を注がせる。

3. 第十四圖のやうに、日光のあたつてゐる場合には、或瞬間の明暗を捕へるやうに注意させるがよい。



第十四圖（男第十二圖）校 舎

第十三課 家のある風景 寫生 三時間

要旨 家のある風景を畫かせて、觀察力と表現力とを高める。

準備 屋外寫生用具。

指導 1. 第十五圖（男第十三圖）を鑑賞させ、地平線の高さ、遠近による形及び色の變化、省略描寫の要領等に就いて知らせる。

2. 屋外寫生に必要な材料・用具を持つて、寫生する場所に行かせる。

3. 適當な場所を選定させる。

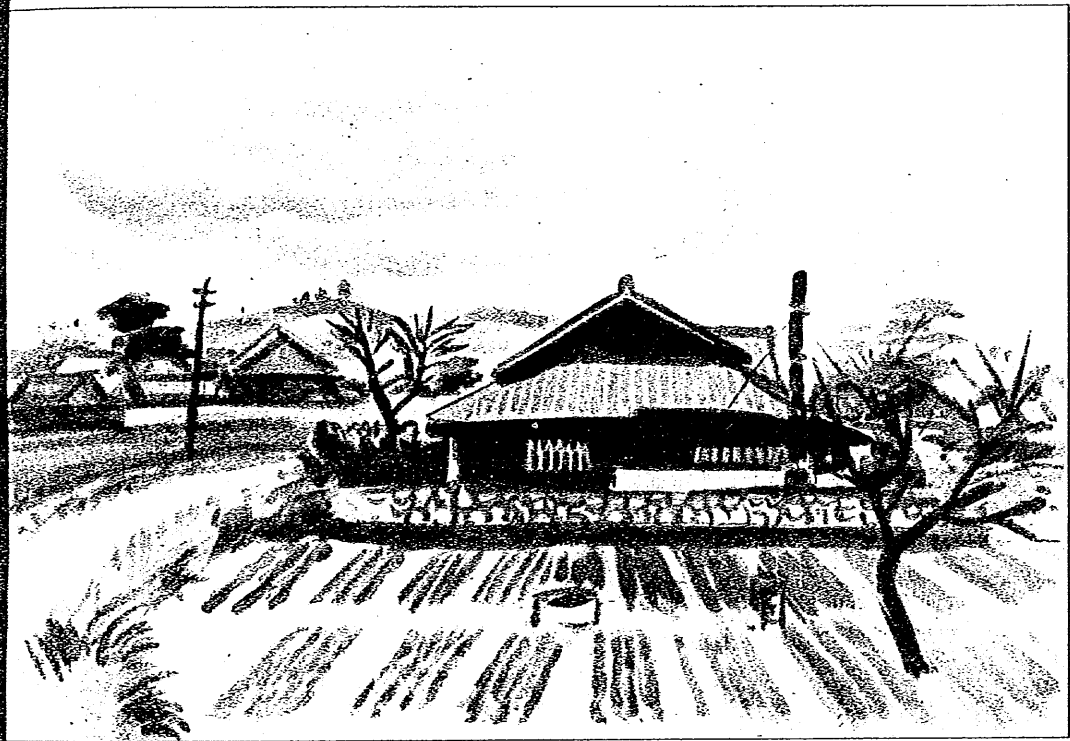
4. 構圖を考へ、遠近に注意して輪廓を取らせる。

5. 明暗・色彩に注意して、手順よく仕上げさせる。

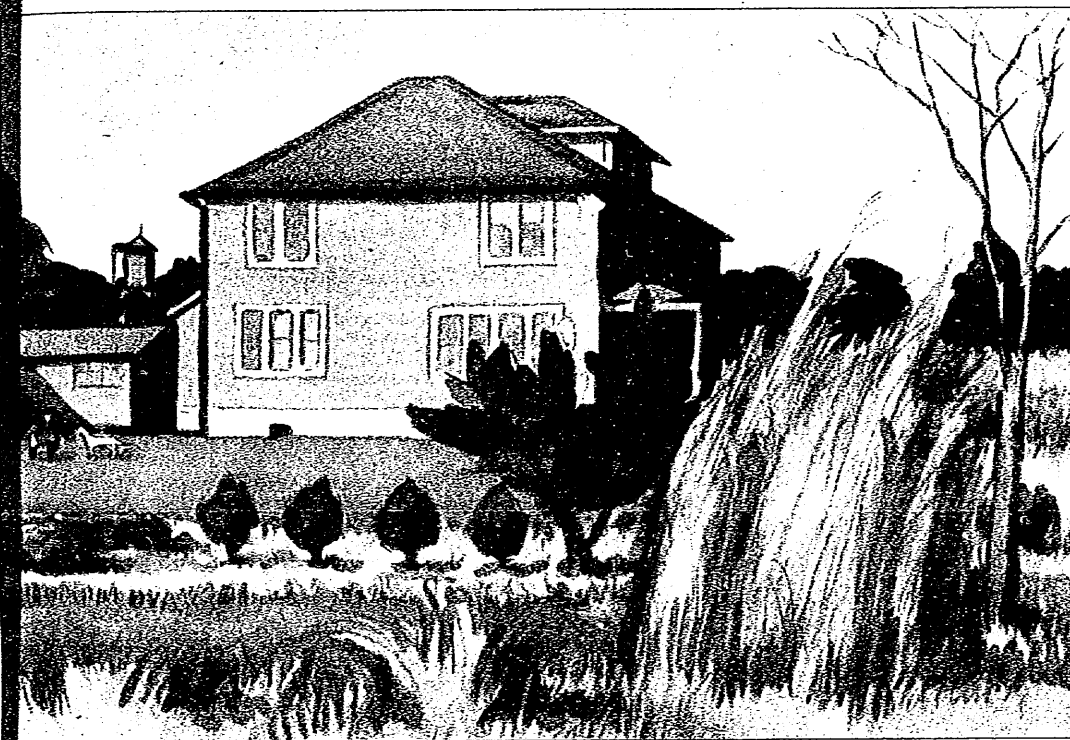
備考 1. 第十五圖は、やゝ高い位置から見た農村の風景、第十六圖は、家屋を中心とした郊外の風景である。

2. 畫面に於ける地平線の高さ、遠近による形、及び色の變化に注意させる。

3. 細部の形や色に拘泥して全體の調子を亂さぬやうにさせるがよい。



第十五圖（男第十三圖）家のある風景 其の一



第十六圖 家のある風景 其の二

第十四課 年賀状 圖案・説話 三時間

要旨 年賀状の圖案を畫かせて、意匠を練り、應用の力を養ふと共に、版畫に就いて知らせる。

準備 參考品・版木・用紙・彫刻刀・印刷用具。

指導 1. 第十七圖（男第十四圖）及び參考品を鑑賞させ、年賀状の資料・圖柄・文字等に就いて、圖案的要領を明らかにし、特に木版畫の味に注意させる。

2. 適當な資料を選んで、意匠を練らせる。

3. 形を整へた後、配合のよい色で仕上げさせる。

4. 版畫に就いて説話する。（説話資料参照）

備考 1. 第十七圖は、木版で摺つた年賀状の圖案的例を示したもので、左から上は繪馬・鶏、下は南天・葉牡丹・梅を資料としたものである。鶏と梅とは主としてこますきで彫り、その他は主として版木刀で彫つたものである。

2. なるべく私製葉書用紙か、又は葉書大の紙に畫かせるがよい。

3. 圖案は簡單で、よく年賀の意味を現すものを考へさせるがよい。

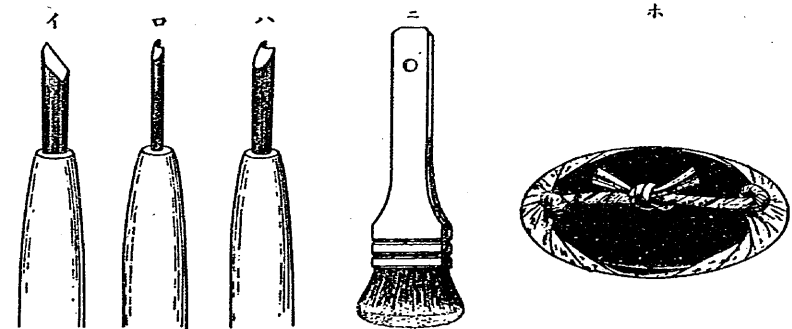
4. 文字は、圖柄と調和し、位置よく適當の大きさに畫かせるがよい。

5. 圖案は、なるべく彫刻して何枚も摺らせ、實際に活用させるがよい。

説話資料 簡易な版畫には、芋版・リノリューム版等種々あるが、比較的製作に容易で、しかも趣味の深いものは、木版畫である。

材料 木版畫の材料には、版木・糊・用紙・繪の具等を要する。版木には、通常朴・桂・櫻等を使ふ。糊は、生麩糊でよい。用紙は、日本紙でも畫用紙でもよい。繪の具は、水繪の具でよい。

用具 木版畫の製作には、彫刻刀・摺用具等を要する。彫刻刀は、圖に示す三種あればよい。イは版木刀、ロはこますき、ハは丸刀と稱する。版木刀は、専ら切込みに使ひ、身幅六耗ばかりのものがよい。こますきは丸刀の小さいもので、線彫に用ひ、幅三耗ばかりのものがよい。丸刀は廣い部分を淺へるのに使ひ、幅七八耗ばかりを適當とする。摺用具には、木版刷毛とばれんとを要する。木版刷毛は、ニに示すやうな形狀を

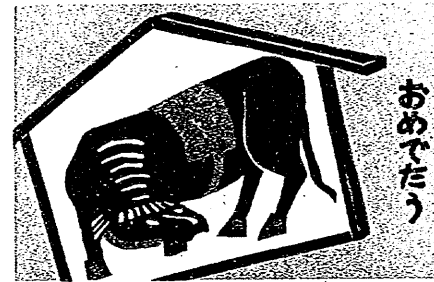


なし、穂幅が三穂のものでよい。穂先を焦し、絞皮で擦つて、毛の先を割つて使用するがよい。ばれんは、皿形のばれん當をしんとし、これを竹の皮で包んだもので、ホに示すやうな形をしてゐる。

方法 木版畫の製作には、版下・彫り・摺りの三工程を経る。先づ版下を薄紙に書き、版木に糊を附けて、それを裏向きに貼り、乾いた後、彫るのが順序である。色摺版畫の場合には、色数だけの版を彫り、摺りを確實にするために見當みあたうを設ける。摺るには、刷毛に少量の繪の具を附けて版木に塗り、紙の角を見當にあてながら下し、裏がらばれんで撫でる。元來版畫は、なるべく色数を少くし、素朴で單純に現すのを尊ぶものであるから、その味を失はないやうにすべきである。色摺版畫には、第十七圖に示す牛の繪馬の如く、墨線を主調とし、これに色彩を差したものと、同圖の葉牡丹の如く、主として色の塊で構成される没骨式のものとがある。前者の如き色版を作るには、始め墨版を刻り上げ、その摺つたものに所要の色差しをして、それを別々の板に貼つて彫刻し、摺るのである。後者の如き場合には、原畫に基づき、色数だけの版下を作つて、それを各、版木に貼つて彫るのである。

見當は、第十八圖に示すやうに、鈎形と一字形のもので、用紙が一枚引掛る程度の段を、各色版の同じ位置に作つて置いて、これに紙の隅と邊とを當て、ばれんで撫でて摺るのである。見當は、摺りに極めて大切なものであるから、忘れないやうに一定の位置に彫つて置くべきである。

摺る時には、用紙を少し濡すがよい。それには用紙を濡れた紙の間に挟んで置くがよい。



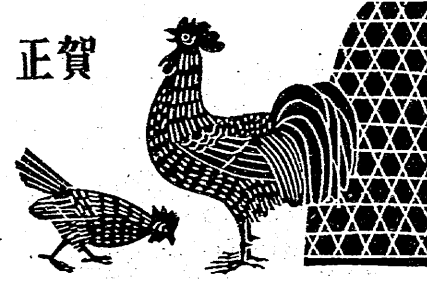
おもてだう



正賀



新賀



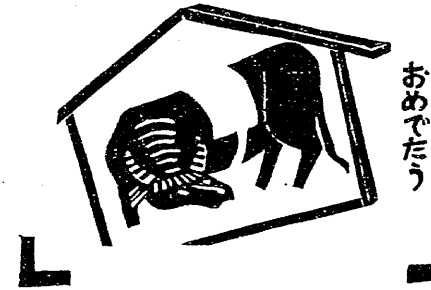
正賀



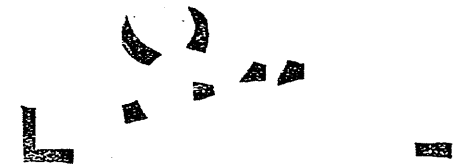
正賀

第十七圖 (男第十四圖) 年賀狀 其の一

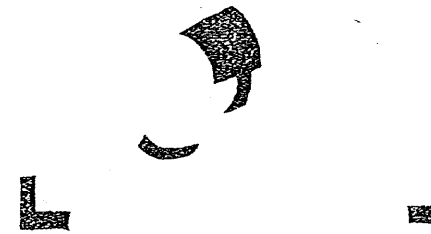
(イ)



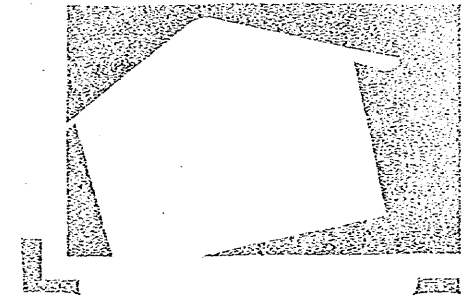
(ハ)



(ロ)



(ニ)



第十八圖 年賀狀 其の二

第三學期

第十五課 靜物 寫生畫 三時間

要旨 靜物を畫かせて、構圖・觀察・表現の力を高める。

準備 靜物。

指導 1. 第十九圖（男第十五圖）を鑑賞させ、構圖、質の表現、色調等を味はせる。

2. モデルを、適當な場所に、よい組合はせに配置させる。

3. モデルの特性・形狀・明暗・色彩を觀察し、構圖を考へて、輪廓を正しく取らせる。

4. 任意な方法で、手順よく仕上げさせる。

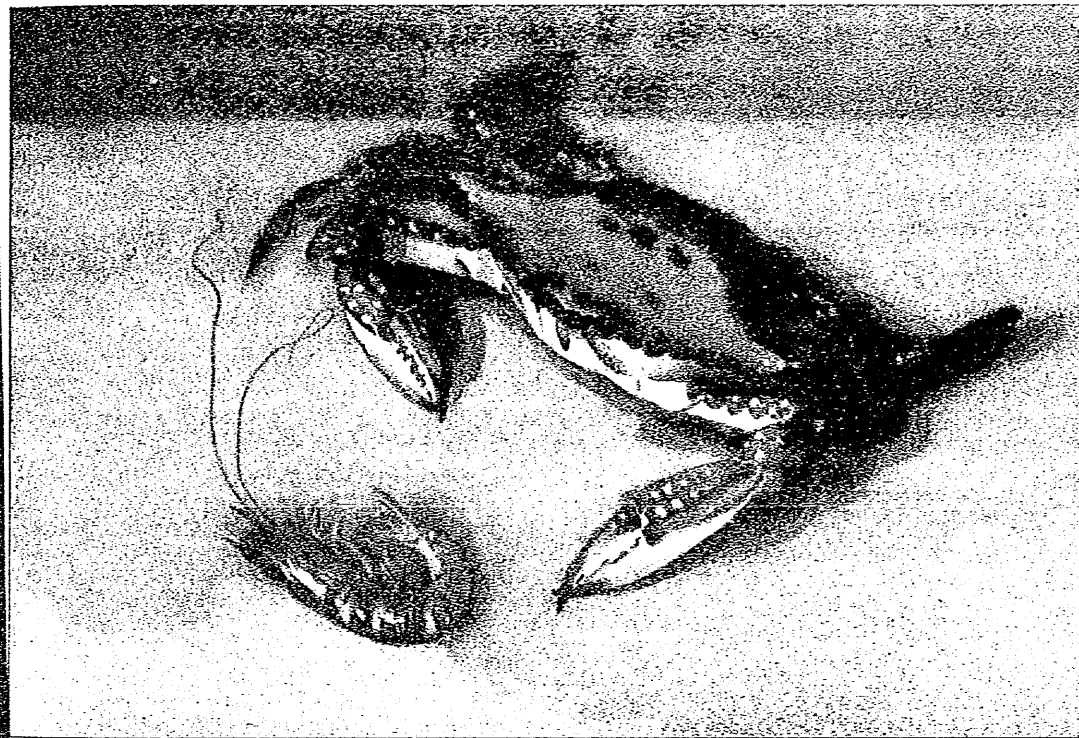
備考 1. 第十九圖は、かにとえびの茹でたものを、第二十圖は、ほらがひとあかゝひを畫いたものである。

2. これまでに畫いた書物・花瓶・土瓶・コップに花、果物と壺、野菜等は皆靜物であるが、こゝでは適當なものを自由に選擇して、しつかり畫かせるがよい。

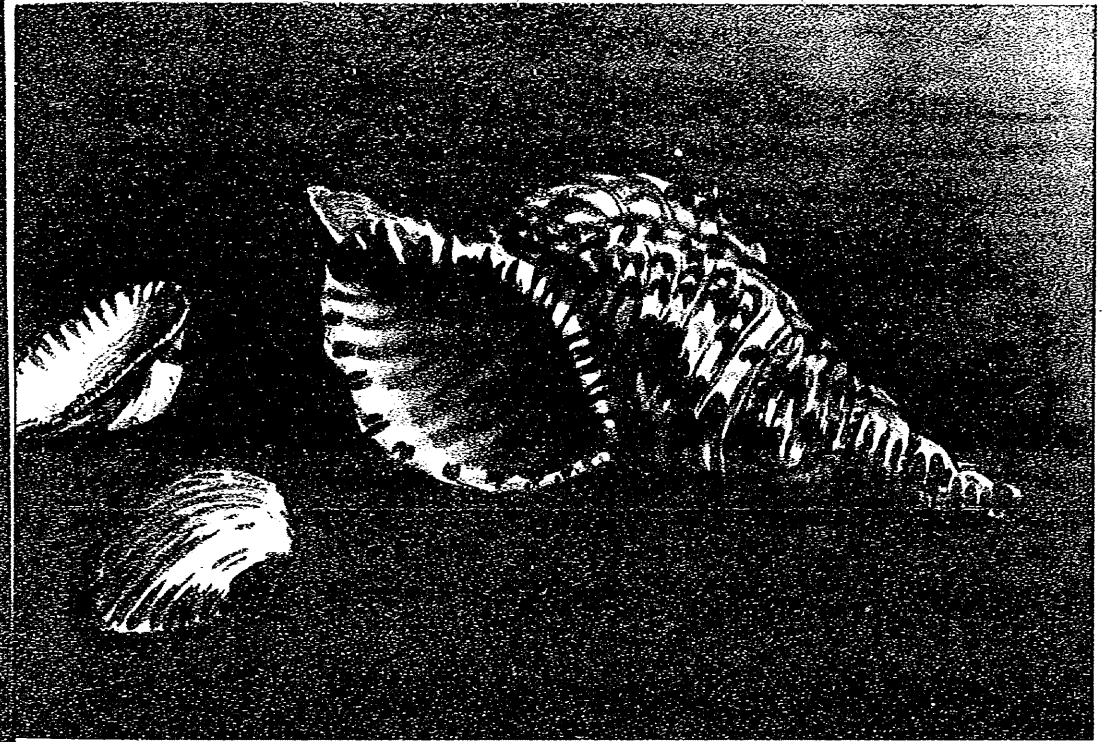
3. モデルの選擇に當つては、その取合はせ、形狀・色彩に注意させるがよい。

4. モデル・桌面・背景等の色彩・調子に注意して畫かせる。

5. モデルの保管に注意を要する。



第十九圖（男第十五圖）靜物 其の一



第二十圖 静物 其の二

第十六課 配色に就いて 説話・鑑賞 一時間

要旨 配色に就いて知らせ、色彩に対する鑑賞力を高める。

準備 配色圖・参考品。

指導 第二十一圖（男第十六圖）及び参考品を鑑賞させ、配色法一斑を説話し、色彩に対する美意識と美的情操とを養ふ。

備考 1. 配色圖及び参考品は、なるべく大きいものを準備するがよい。

2. 説話と鑑賞とは、互に交錯させ、或は説明し、或は問答し、或は見た感じを述べさせる等、適当な方法によるがよい。

3. 配色は、色の明暗、面積の廣狹等によつて感じの違ふものであるから、實物に就いて、よくこれを理解させるがよい。

4. 次の説話資料は、教師の参考に掲げたものであるから、指導の實際に當つては、適宜取捨補説するがよい。

説話資料

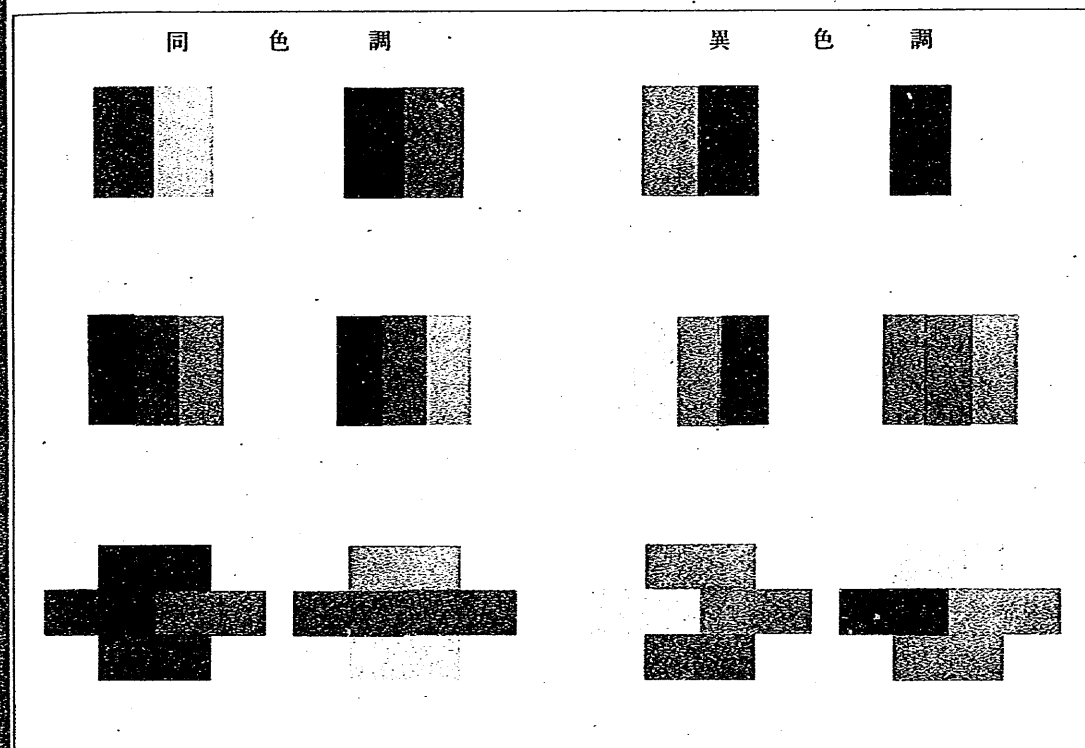
配色は、實生活、及び美術工藝に頗る密接な關係を有する重要な問題である。元來配色に關することは、甚だ感情的のものであつて、その好惡は、文化の程度・風俗・習慣・性別・年齢・教養・流行等に左右され易いものであり、随つてその良否を、單純な法則によつて律することは容易でないが、或程度の規準を示すことは出来る。

すべて色は、その配合よろしきを得れば、互に照應して美感を與へるものである。これが所謂色の調和である。色の調和は、色彩の種類・明暗・濃淡等の按排統制に基づくものであつて、この點から配色を同色調と異色調とに大別することが出来る。

同色調は、同系統の色を配合するものであつて、例へば赤色と淡赤色、紫色と淡紫色、黒色と鼠色の配合の如く、同一色の濃淡による組合はせ、又は赤色と橙色、青色と緑色の配合の如く、同系統の色の組合はせがそれである。此の配合は、一般に穏和で秩序ある美感を與へるが、時に單調に流れる場合がないでもない。異色調は、異系統の色を配合するものであつて、例へば赤色と青色、青色と黄色、赤色と緑色の配合の如きがそれである。この配合は反映が甚だ強烈であつて、動もすれば卑俗に陥り易いが、強い印象を與へるに適してゐる。

た、明色だけ又は暗色だけでよい配合を得ることもあるが、これは概して單調に流れ易いから、明暗・濃淡を取合はせるがよい。又配合が強烈に過ぎる時は、各の色を弱めて調和を図ることもある。

三色以上の配合になると、頗る複雑で、標準を定めることが一層困難であるが、先づ二色のよい配合を求め、その中間色又は合成色を配合して、調和を図るがよい。



第二十一圖 (男第十六圖) 配色圖

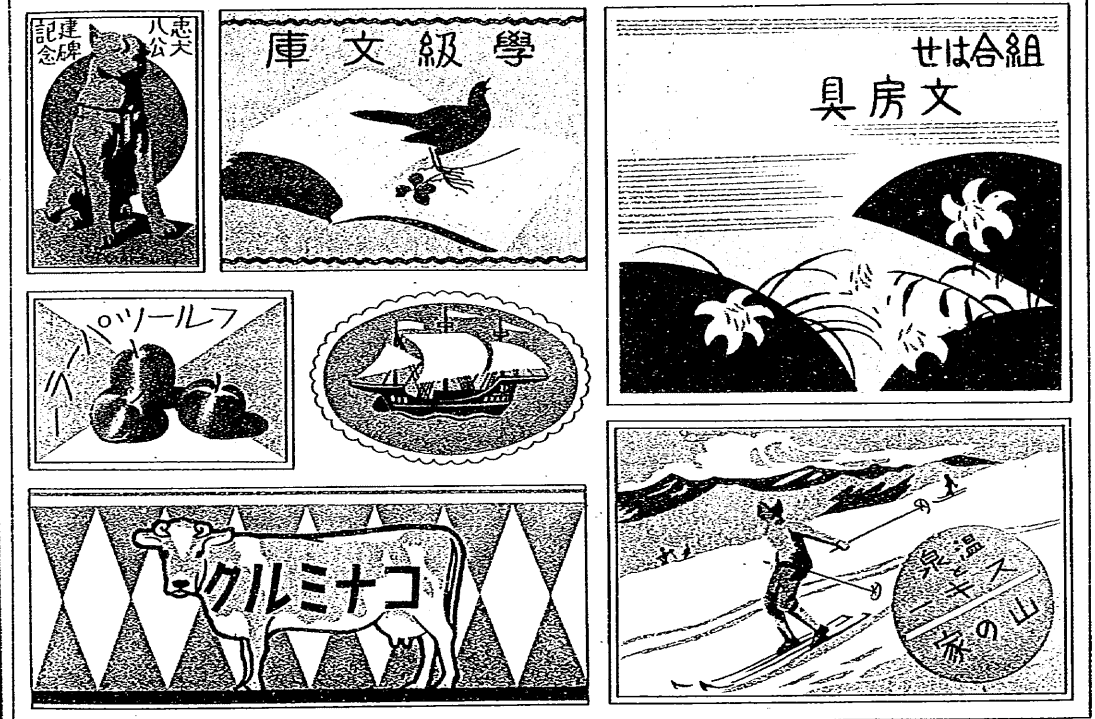
第十七課 レッテル 圖案 三時間

要旨 レッテルを圖案させて、意匠を練り、應用力を養ふ。

準備 参考品。

- 指導
1. 第二十二圖（男第十七圖）及び参考品を鑑賞させ、レッテルの用途・着想・構成等に就いて知らせる。
 2. 任意の題材を選ばせ、資料及び構成に就いて考案を練らせる。
 3. 輪廓を畫かせる。
 4. 色の配合を考へて、仕上げさせる。

- 備考
1. 題目を豫告して、實際に用ひられてゐる種々のレッテルを蒐集させ、鑑賞及び着想・構成の参考に資するがよい。
 2. 時宜により、色紙を使はせてもよい。
 3. 時間のゆるす限り、幾つも畫かせるがよい。



第二十二圖（男第十七圖）レッテル

第十八課 筆 立 図案・用器畫 三時間

要旨 筆立を畫かせて、考案を練り、製圖の力を高める。

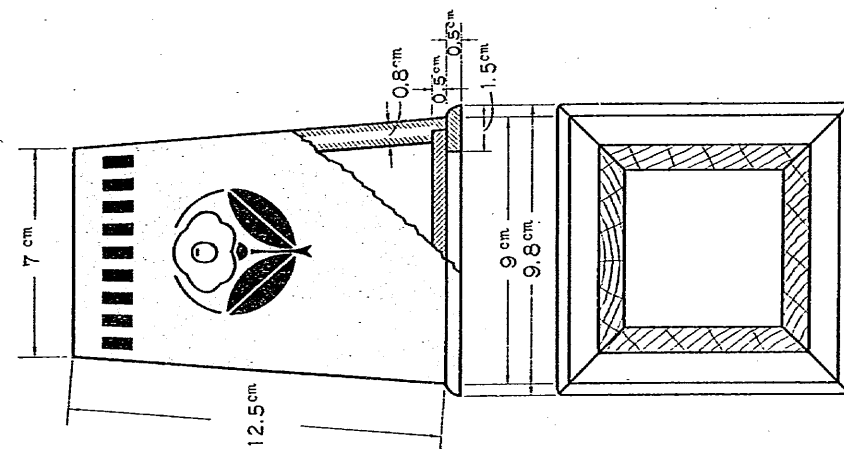
準備 参考品。

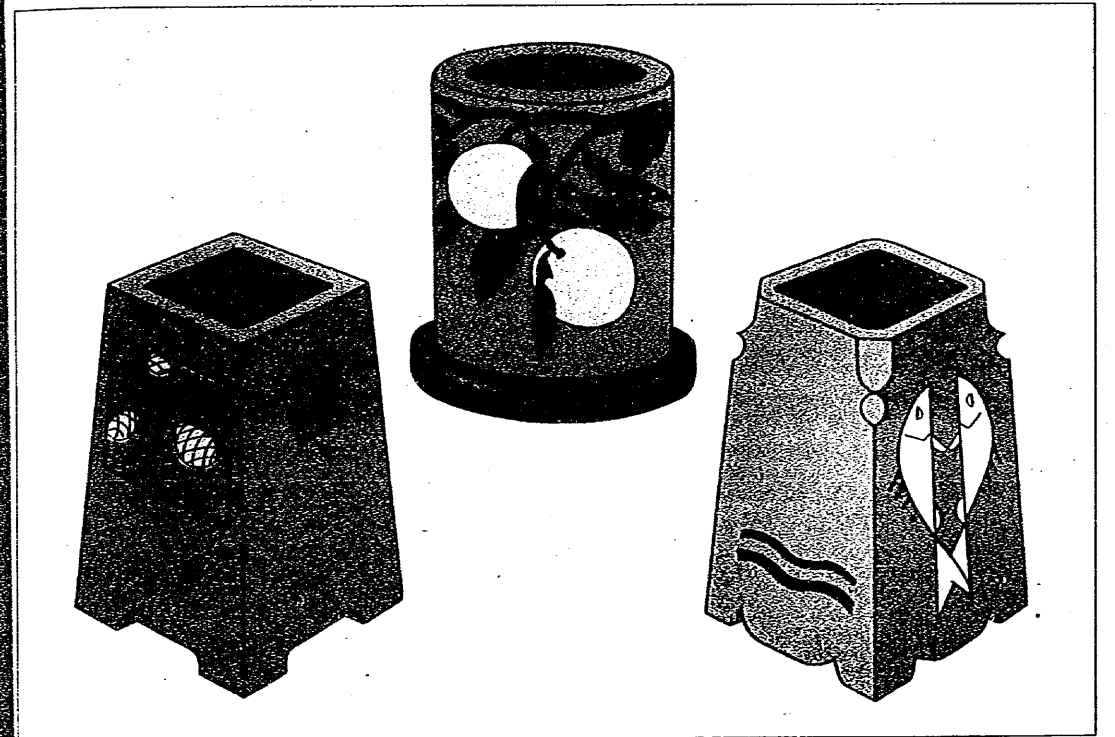
- 指導 1. 第二十三圖（男第十八圖）及び参考品を觀察させ、形狀・構造、並びに正面圖と平面圖との關係、及び斷面の示し方、寸法の入れ方等に就いて知らせる。
2. 形狀・構造・裝飾等に関する圖案の要件を明らかにする。
3. 考案を練らせる。
4. 圖の大きさ、製圖の順序・方法等を考へて、淡く下圖を畫かせる。
5. 下圖を確實にした後、仕上げさせる。

- 備考 1. 第二十三圖は、木製の筆立の圖案及び製圖を、第二十四圖の、上は竹製、下は木製の筆立の圖案を示したものである。
2. 全體の形狀を美しく考案させると共に、着色及び模様を適當に施さしむべきである。
3. 倒板の傾斜せる場合の平面圖の畫き方、傾斜面の寸法の入れ方、斷面の現し方等に就いて、特に明確な觀念を與ふべきである。

筆 立

$\frac{1}{2}$





第二十四圖 筆立 其の二

女 児 の 部

第 一 學 期

第一課 書 物 寫生畫 二時間

要旨 書物を畫かせて、構圖を考へ、遠近による形の變化を觀察させ、表現力を養ふ。

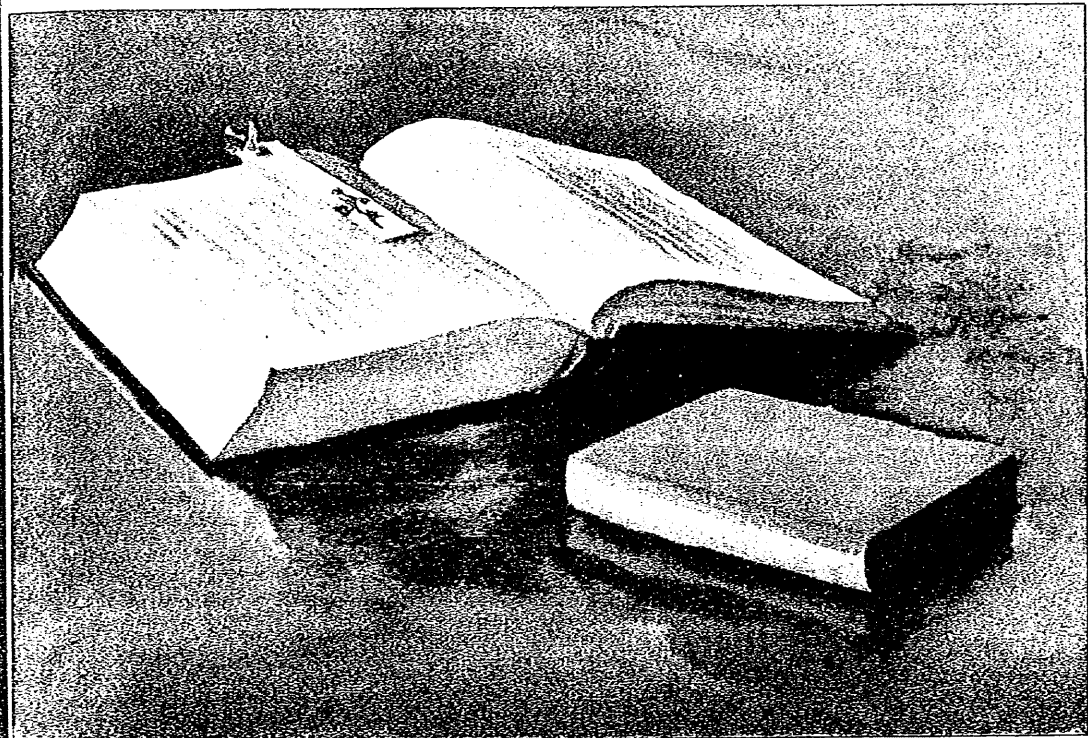
準備 書物。

- 指導
1. 第二十五圖（女第一圖）を鑑賞させ、特に構圖・形狀・明暗・色彩等に就いて知らせる。
 2. 書物を適當な場所に置き、形（開いた場合、閉じた場合）及び組合はせを整へさせる。
 3. 形狀・明暗・色彩に就いて觀察させる。
 4. 位置を考へて、輪廓をとらせる。
 5. 任意の方法で仕上げさせる。

備考 1. モデルは、なるべく大きくて、厚く、色の美しいものがよい。

2. 形狀・明暗・色彩の觀察を確實にすべきである。

3. 文字を現す場合には、よく面にそひ、且つ大體の感じを出す程度に止めさせるがよい。



第二十五圖（女第一圖）書 物

第二課 花 瓶 寫生畫 二時間

要旨 花瓶を畫かせて、觀察力と表現力とを養ふ。

準備 花瓶。

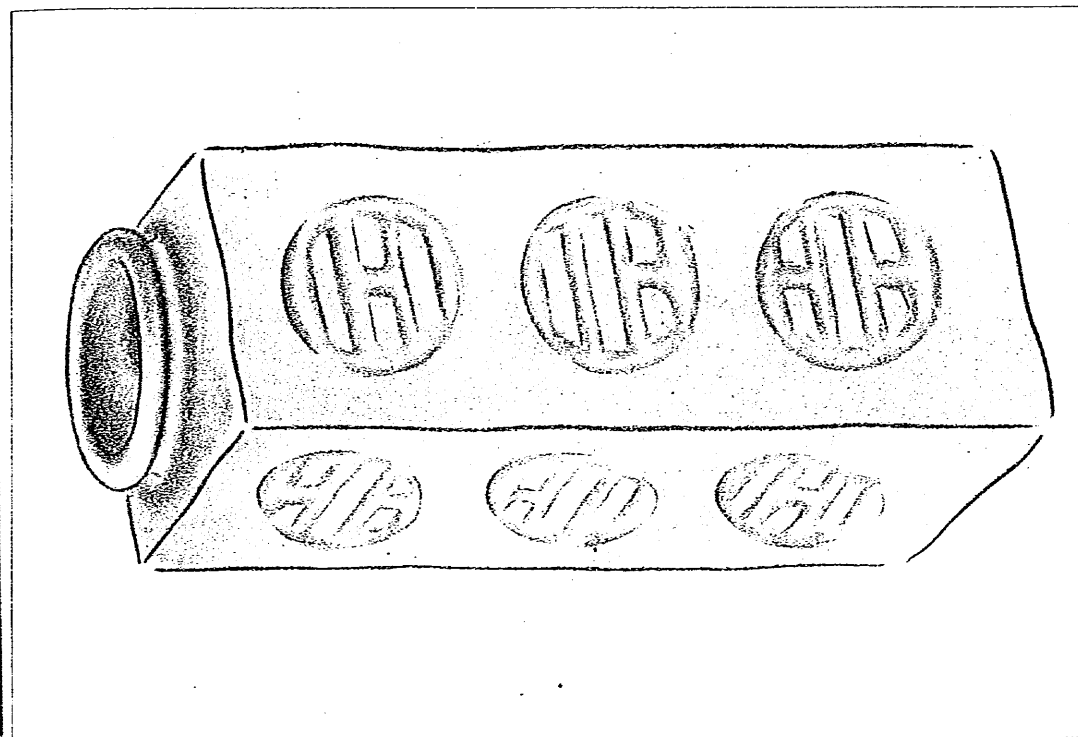
指導 1. 第二十六圖（女第二圖）を鑑賞させ、形狀・線・色彩等に就いて味はせる。

2. モデルを適當な場所に置き、その形狀・明暗・色彩等を觀察させ、表現の方法を考へさせる。

3. 位置よく、正しく輪廓をとり、任意の方法で仕上げさせる。

備考 1. モデルは、形が相當に大きくて、模様の簡單なもの、又は模様の無いものを選ぶがよい。

2. 表現の方法は、第二十六圖の如く、線と色とを主としたものでもよく、又陰影を施したものでもよい。



第三課 花

寫生畫 二時間

要旨 花を畫かせて、觀察力と表現力とを練る。

準備 花。

指導 1. 第二十七圖（女第三圖）を鑑賞させ、構圖・線・色彩等を味はせる。

2. モデルを適當な場所に置き、形を整へさせる。

3. 構圖を考へて、輪廓を取らせる。

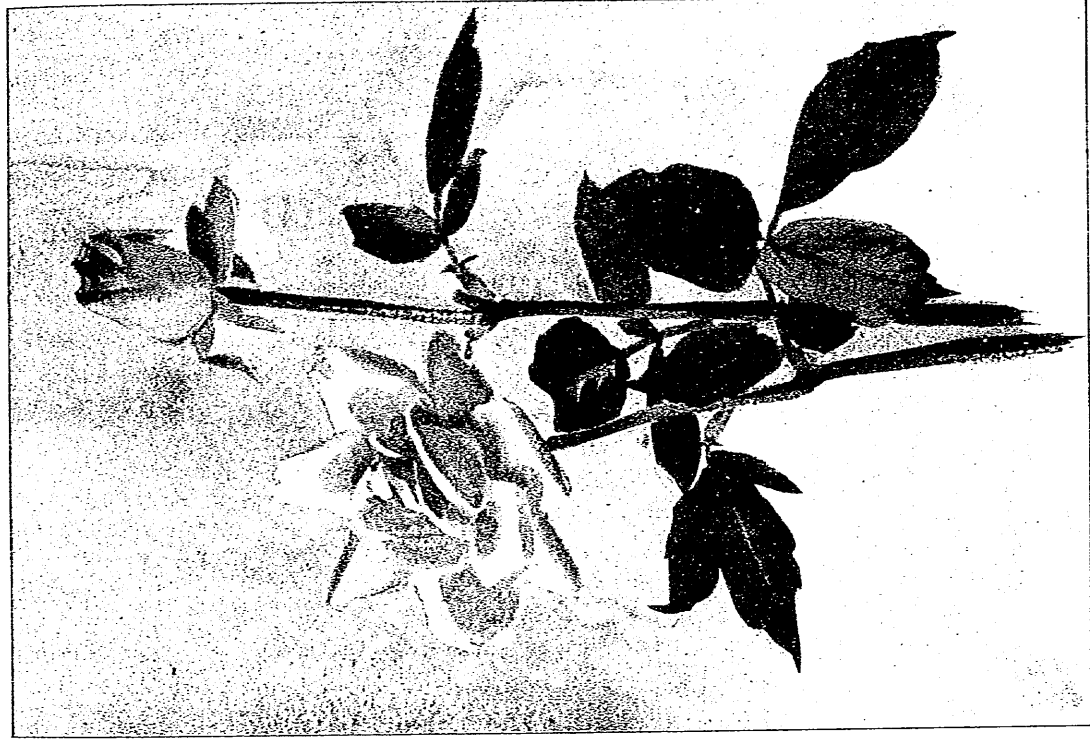
4. 任意の方法で仕上げさせる。

備考 1. 第二十七圖は百合を、第二十八圖は薔薇を、各異つた方法で現したものであるが、兒童には自由な方法で畫かせるがよい。

2. 花は變化し易いものであるから、特に表現の順序・方法に考慮を用ふべきである。

3. 花の姿態・感じ等に注意させるがよい。





第四課 手 提 圖 案 三時間

要旨 手提の圖案を畫かせて、考案を練り、應用の力を養ふ。

準備 參考品。

指導 1. 第二十九圖（女第四圖）及び參考品を鑑賞させ、その形狀・裝飾等に就いて知らせる。

2. 手提の形狀・裝飾等に就いて考案の要件を知らせる。

3. 考案を練らせる。

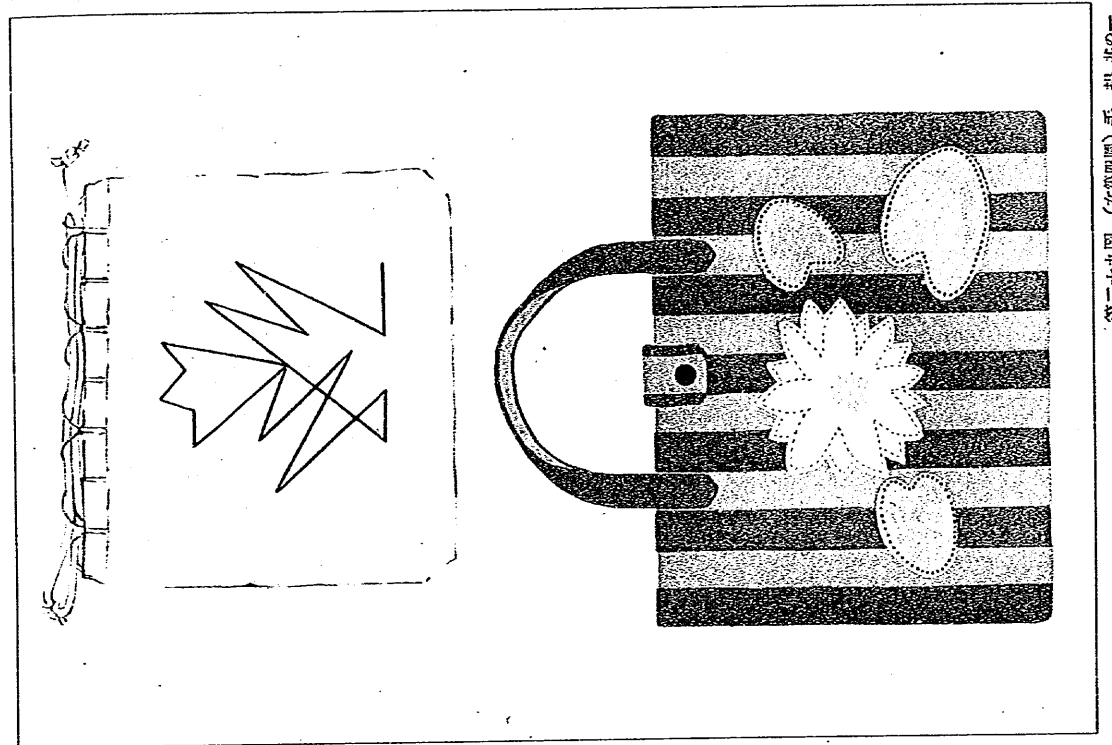
4. 下圖を畫かせ、色で仕上げさせる。

備考 1. 第二十九圖の上は百合を刺繡で、下は水蓮を貼附け（アップリケ）で、第三十圖は百合及び薔薇を刺繡で、現すべきものの圖案を示したものである。

2. 兒童には、一つだけを圖案させればよい。

3. 用途・材料・製作法を考へ、且つ形と裝飾とは互に關係のあることに留意して、考案するやうにさせる。

4. 形と裝飾とに就いて考案させるのを本體とすべきであるが、時宜によつては、既製の手提に裝飾だけを施すものとして、考案させてもよい。





第三十圖 手提其の二

第五課 茶 器 寫生畫 三時間

要旨 茶器を畫かせて、形狀及び明暗の變化を觀察させ、構圖及び表現の力を養ふ。

準備 茶器。

指導 1. 第三十一圖（女第五圖）を鑑賞させて、構圖・形狀・明暗・色彩等を理解させる。

2. モデルを適當な場所に、よい組合はせに配置させる。

3. 形狀・明暗・色彩を觀察し、構圖を考へて輪廓を取らせる。

4. 任意の方法で、手順よく仕上げさせる。

備考 1. モデルは香茶器・煎茶器・紅茶器その他の中から適當なものを選び、二三箇を組合はせて畫かせる。

2. 特に遠近による形の變化に注意させ、質の表現に力めさせる。

3. 茶器と卓面及び背景との調子に注意させる。



第三十一圖（女第五圖）茶 器

第六課 海 邊 の 朝 臨 畫 二時間

要旨 「海邊の朝」を畫かせて、鑑賞力と表現力を高める。

指導 1. 第三十二圖（女第六圖）を鑑賞させ、夏の朝のなごやかな、うるほひのある感じ、空・海・濱等の穏かな調子を味はせる。

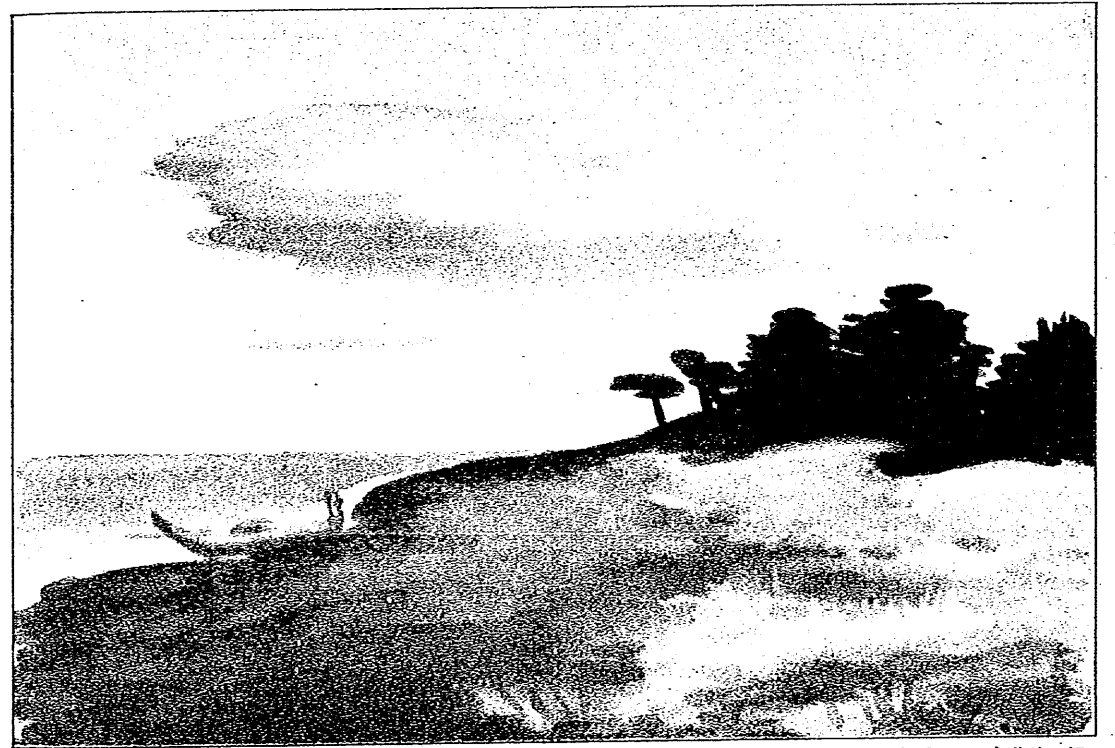
2. 輪廓を取らせる。

3. 色調・筆觸等に注意して、手順よく仕上げさせる。

備考 1. 第三十二圖は、静岡県三保の朝景色を畫いたものである。

2. 穏かな、しつとりとした感じに注意し、しかも鈍くならぬやうに畫かせるがよい。

3. 便宜、風景畫に於ける省略の要領に就いて、指導するがよい。



第三十二圖（女第六圖）海邊の朝

第七課 風景スケッチ 寫生畫 一時間

要旨 風景スケッチをさせて、感じを主とし、簡明に速寫する力を養ふ。

指導 1. 第三十三圖（女第七圖）を鑑賞させ、場所の選び方、遠近による形及び色の變化等、省略描寫の要領に就いて知らせる。

2. 必要な材料・用具を持つて、スケッチする場所に行かせる。

3. 適當な場所を選定させる。

4. 構圖をきめて、手早く畫かせる。

備考 1. 第三十三圖の上は、阿蘇山を、下は琵琶湖をスケッチしたものである。

2. この教材は、夏季休暇に於ける、自由スケッチの基礎陶冶をするために採つたのであるから、そのつもりで指導するがよい。

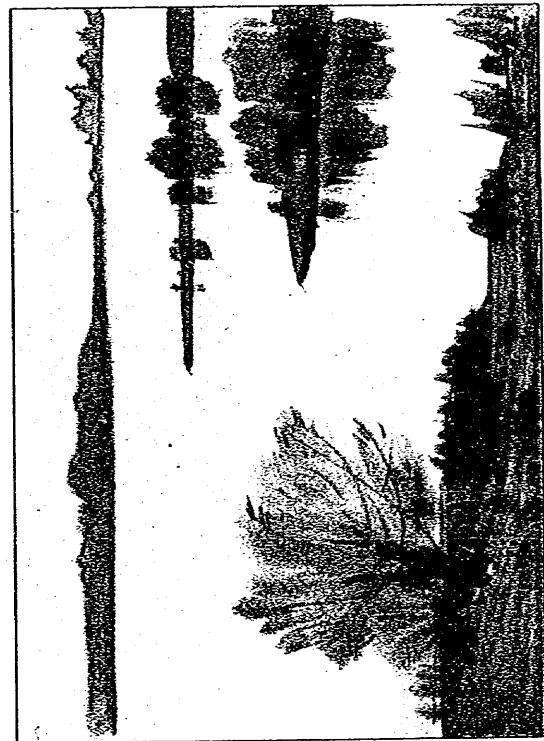
3. スケッチブック、又はその代用になるものを持たせるが便利である。

4. 暑い時であるから、なるべく日陰で畫かせるがよい。

5. 細部の形や色に拘泥して全體の感じを失はないやうに、注意させるがよい。

6. 畫面に於ける地平線の位置に、注意させるがよい。

7. 一枚に限らず、何枚も畫かせるがよい。



第 二 學 期

第八課 夏の夕暮 思想畫 二時間

要旨 夏の夕暮を畫かせて、構想力を練り、思想の發表をさせる。

指導 1. 題目を豫告して、夏の夕暮の情景を觀察させて置く。

2. 第三十四圖（女第八圖）を鑑賞させ、河畔に於ける夕暮の明暗・色彩・感じ等を味はせる。

3. 如何に現すべきかを考へさせる。

4. 輪廓をとり、色で仕上げさせる。

備考 1. 第三十四圖は河邊の夕暮を想起して畫いたものであるが、畫く場面は、景色にかぎらず自由に選ばせるがよい。

2. 細部の描寫に拘泥して全體の感じを失することなきやう、注意させる。



第三十四圖（女第八圖）夏の夕暮

第九課 昆 蟲 寫生畫 二時間

要旨 昆蟲を畫かせて、その特性を觀察し、精密描寫の力を練る。

準備 昆蟲。

指導 1. 第三十五圖（女第九圖）を鑑賞させ、昆蟲の特性・形狀・明暗・色彩等に就いて、表現の要領を知らせる。

2. モデルを適當な場所に置き、その形狀・明暗・色彩等をよく觀察させる。

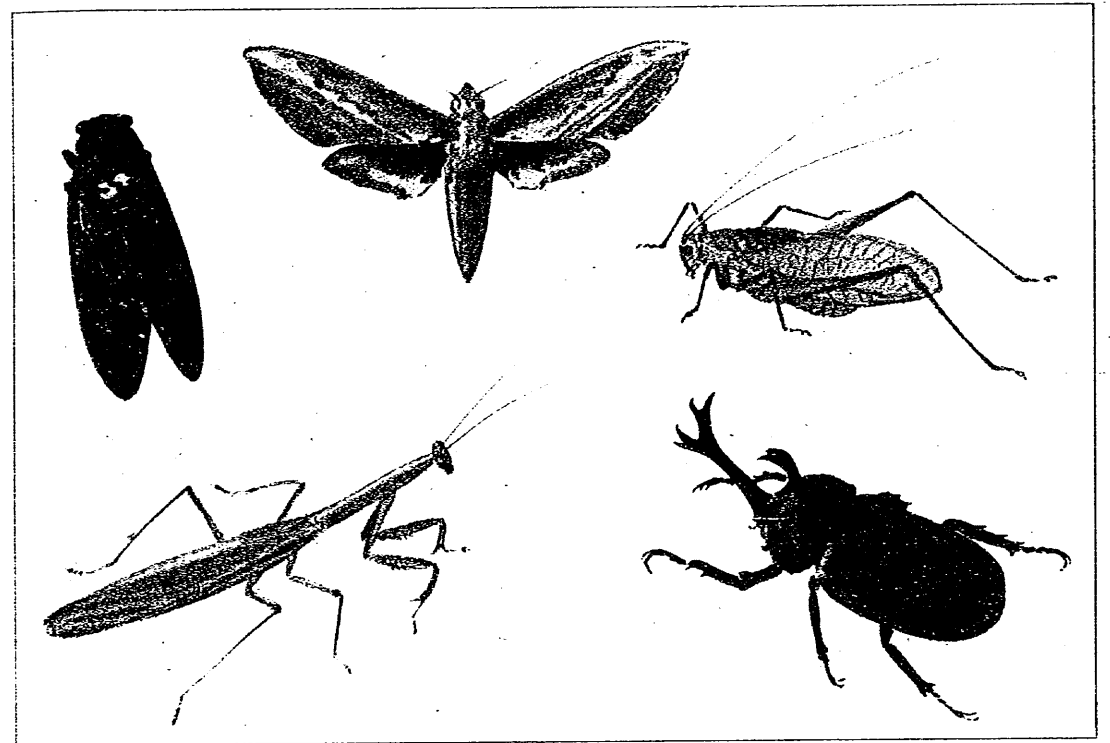
3. 輪廓を正しく取らせる。

4. 手順よく、色で仕上げさせる。

備考 1. 第三十五圖の上は、左からあぶらぜみ、きいろすゞめが、くつむしを、下はおほかまきり、かぶとむしを畫いたものである。あぶらぜみ及びきいろすゞめがは標本を、その他は生きたものを寫生したものである。

2. 昆蟲は、豫告して各自に採集させたものを畫かせるもよいが、時宜により、理科の標本、又は特に寫生用として準備したものを畫かせるもよい。あまり小さいものは避けさせる。

3. 一つだけを、大體實物大に、正確且精密に畫かせるがよい。



第三十五圖（女第九圖）昆 蟲

第十課 菓子皿 図案・用器畫 三時間

要旨 菓子皿を畫かせて、考案を練り、製圖の力を養ふ。

準備 菓子皿。

指導 1. 第三十六圖（女第十圖）及び菓子皿の標本を觀察させて、形狀、並びに正面圖・平面圖の關係、斷面の現し方、寸法の示し方等を明らかにし、且その裝飾に就いて味はせる。

2. 形狀・裝飾等に就いて、考案の要件を知らせる。

3. 考案を練らせる。

4. 製圖の順序・方法等を考へさせる。

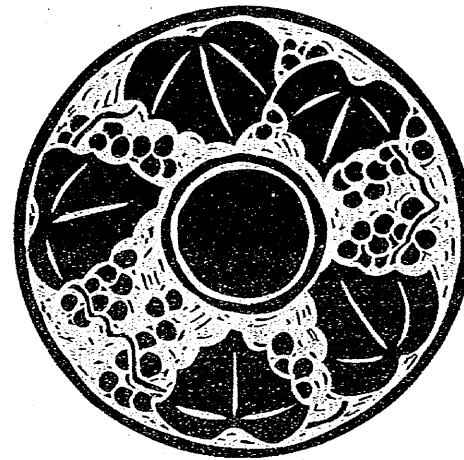
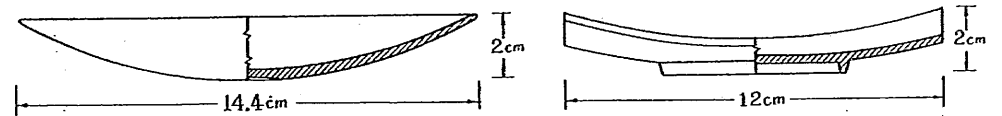
5. 淡く下圖を整へてから、仕上げさせる。

備考 1. 第三十六圖の左は木製の皿に着色してから模様の部分を残して地を彫つたものを、右は樂燒の皿を、第三十七圖の上及び下右は陶磁器の皿を、下左は木彫の皿を示したものである。

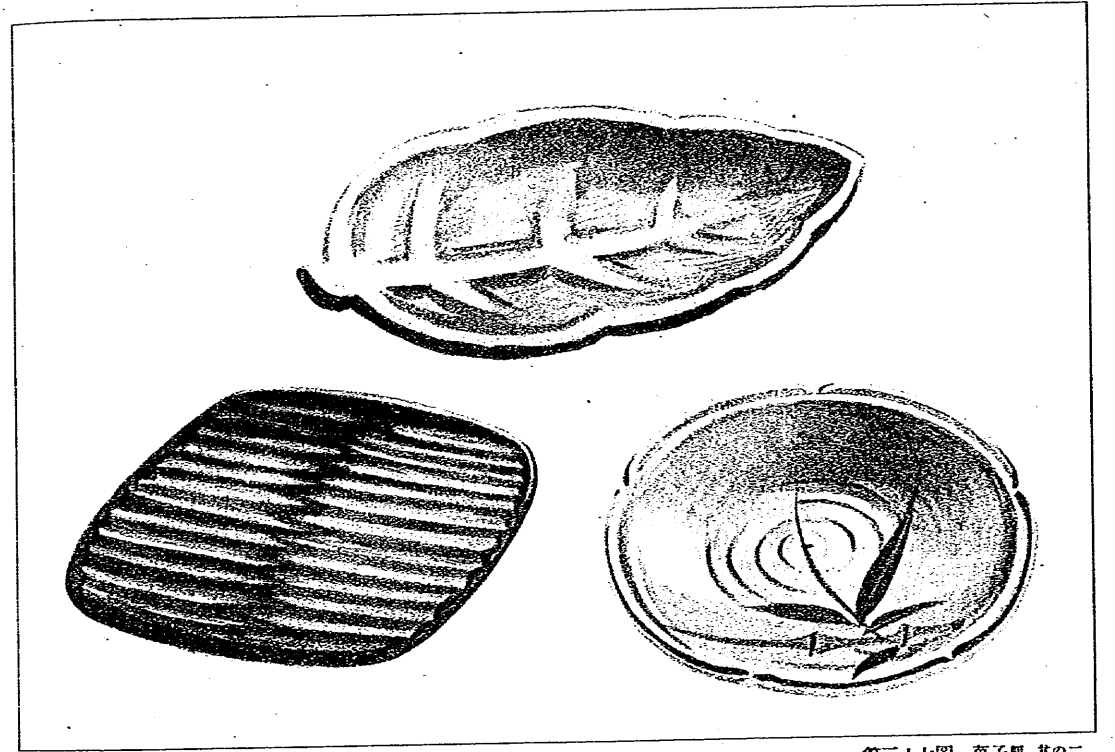
2. 第三十六圖には、二つの例が示してあるが、兒童には一つだけを、なるべく實物大に畫かせるがよい。

3. 用途・材料・製作法を考へて、形狀・裝飾を美しく考案するやう力めさせる。

菓子皿



第三十六圖（女第十圖）菓子皿 其の一



第三十七圖 葉子皿 其の二

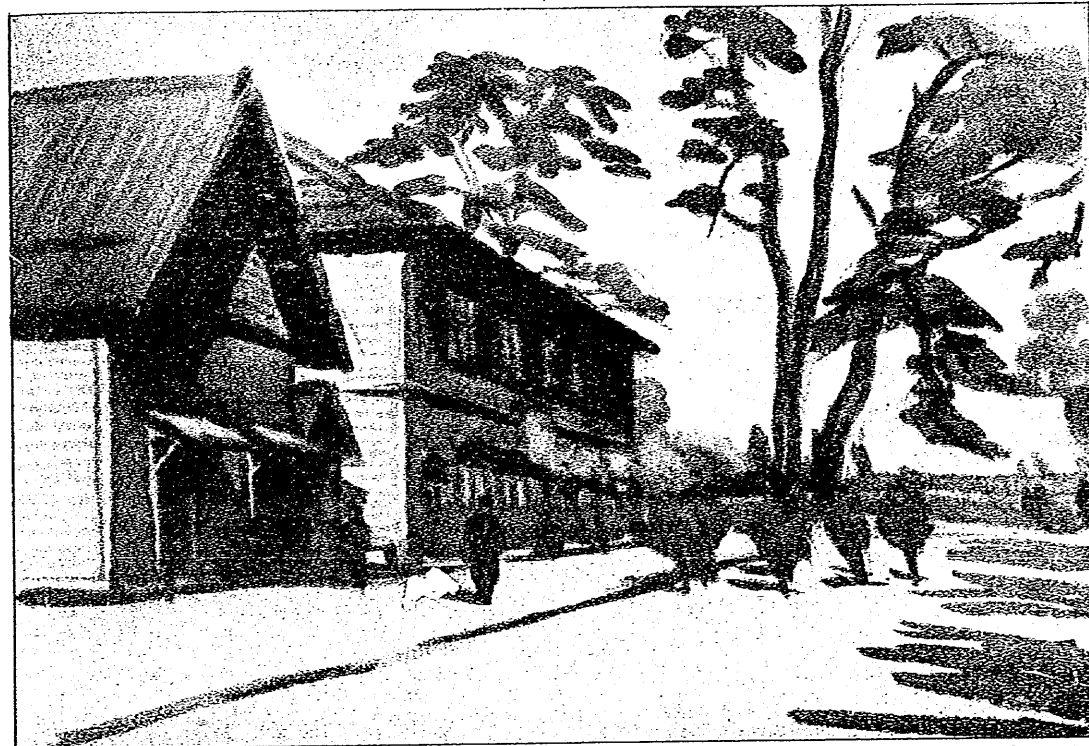
第十一課 校 舎 寫生 二時間

要旨 校舎の一部を畫かせて、觀察力と表現力とを高める。

準備 屋外寫生用具。

- 指導 1. 第三十八圖（女第十一圖）を鑑賞させ、遠近による形の變化、明暗及び色彩の變化、省略の要領等を知らせる。
2. 屋外寫生に必要な材料・用具を持つて、寫生する場所に行かせる。
3. 適當な場所を選定させる。
4. 構圖を考へ、遠近に注意して、正しく輪廓をとらせる。
5. 任意な方法で、手順よく仕上げさせる。

- 備考 1. 題目を豫告して、畫く場所を選定させて置くもよい。
2. 特に校舎の遠近を、正しく畫くことに力を注がせる。
3. 第三十八圖のやうに、日光のあたつてゐる場合には、或瞬間の明暗を捕へるやうに注意させるがよい。
4. 屋外寫生の場合は、特に描寫の手順に注意し、時間を空費しないやう注意させる。



第三十八圖（女第十一圖）校 舎

第十二課 果 物 寫生畫 二時間

要旨 果物を畫かせて、觀察力と表現力とを練る。

準備 果物。

指導 1. 第三十九圖（女第十二圖）を鑑賞させ、その表現法を味はせる。

2. モデルを適當な場所に、よい組合はせに配置させる。

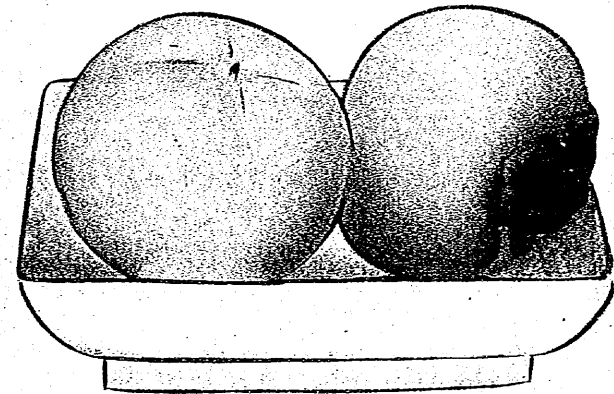
3. 形狀・明暗・色彩等を觀察し、構圖を考へて輪廓をとらせる。

4. 任意の方法で、手願よく仕上げさせる。

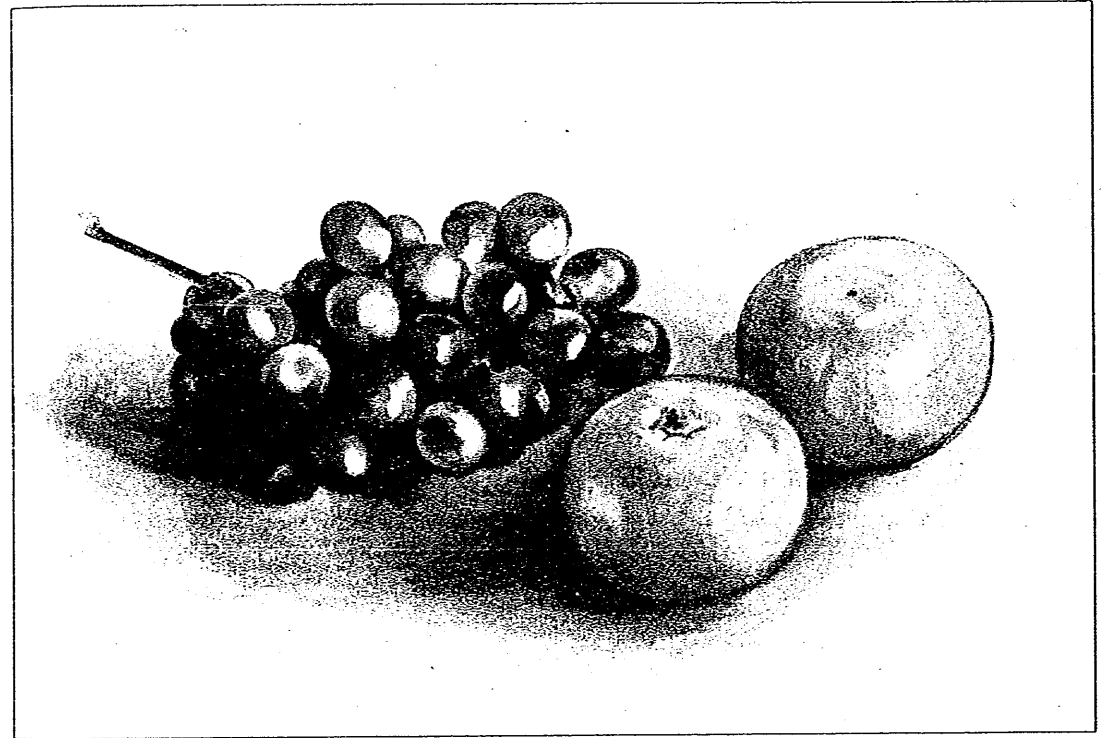
備考 1. 第三十九圖は角皿と柿を、第四十圖は蜜柑と葡萄を、變つた方法で畫いたものであるが、兒童には何れの方法で畫かせてもよい。

2. 皿・ナイフ・盆等を、適宜果物に組合はせて畫かせるもよい。

3. 小さく、ひからびたやうにならぬやう注意させる。



第三十九圖（女第十二圖）果 物 其の一



第四十圖 果物 其の二

第十三課 配色に就いて 説話・鑑賞 一時間

要旨 配色に就いて知らせ、色彩に対する鑑賞力を高める。

準備 配色図・参考品。

指導 1. 第四十一圖（女第十三圖）及び参考品を鑑賞させ、配色法一斑を説話し、色彩に対する美意識と美的情操とを養ふ。

備考 1. 配色図及び参考品は、なるべく大きいものを準備するがよい。

2. 説話と鑑賞とは、互に交錯させ、或は説明し、或は問答し、或は見た感じを述べさせる等、適當な方法によるがよい。

3. 配色は、色の明暗、面積の廣狹等によつて感じの違ふものであるから、實物に就いて、よくこれを理解させるがよい。

4. 次の説話資料は、教師の参考に掲げたものであるから、指導の實際に當つては、適宜取捨補説するがよい。

説話資料

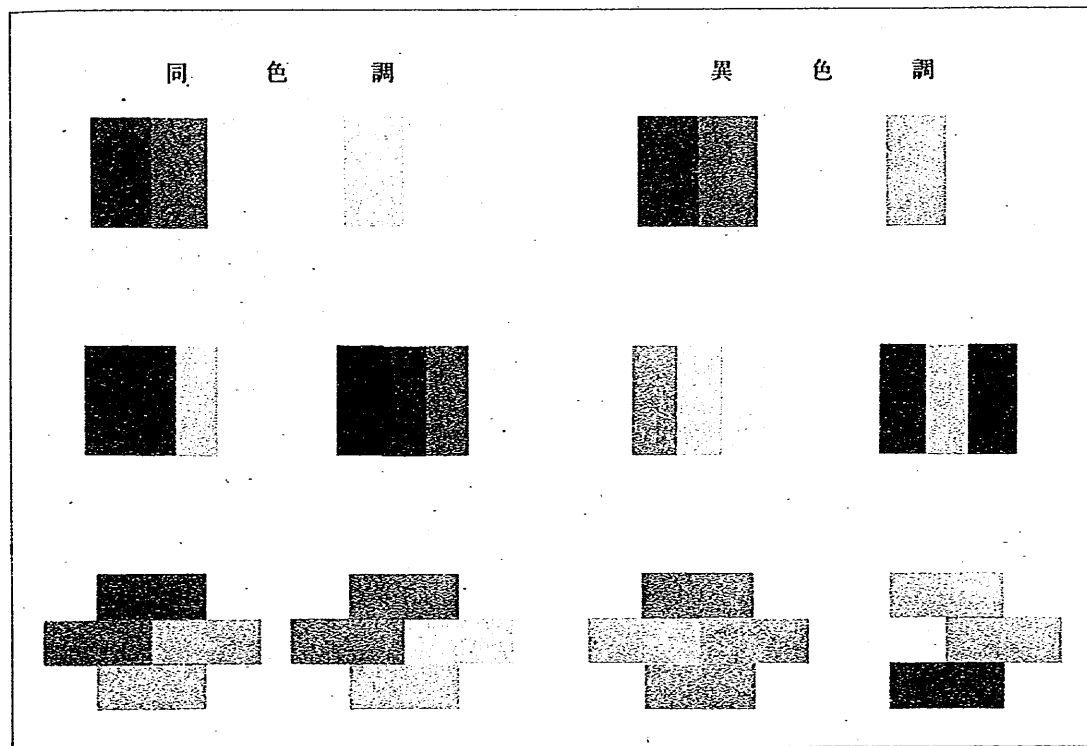
配色は、實生活、及び美術工藝に頗る密接な關係を有する重要な問題である。元來配色に關することは、甚だ感情的のものであつて、その好惡は、文化の程度・風俗・習慣・性別・年齢・教養・流行等に左右され易いものであり、随つてその良否を、單純な法則によつて律することは容易でないが、或程度の規準を示すことは出来る。

すべて色は、その配合よろしきを得れば、互に照應して美感を與へるものである。これが所謂色の調和である。色の調和は、色彩の種類・明暗・濃淡等の按排統制に基づくものであつて、この點から配色を同色調と異色調とに大別することが出来る。

同色調は、同系統の色を配合するものであつて、例へば赤色と淡赤色、紫色と淡紫色、黒色と鼠色の配合の如く、同一色の濃淡による組合はせ、又は赤色と橙色、青色と緑色の配合の如く、同系統の色の組合はせがそれである。この配合は、一般に渾和で秩序ある美感を與へるが、時に單調に流れる場合が無いでもない。

異色調は、異系統の色を配合するものであつて、例へば赤色と青色、青色と黄色、赤色と緑色等の配合の如きこれである。この配合は反映が甚だ強烈であつて、やゝもすると卑俗に陥り易いが、強い印象を與へるに適してゐる。

た、明色だけ又は暗色だけでよい配合を得ることもあるが、これは概して單調に流れ易いから、明暗・濃淡を取合はせるがよい。又配合が強烈に過ぎる時は、各の色を弱めて調和をはかることもある。三色以上の配合になると、頗る複雑で、標準を定めることも困難であるが、先づ二色のよい配合を求め、その中間色又は合成色を配合して、調和を図るがよい。



第四十一圖 (女第十三回) 配色圖

第十四課 座蒲團 圖案 三時間

要旨 座蒲團を圖案させて、意匠を練り、應用力を養ふ。

準備 参考品。

指導 1. 第四十二圖（女第十四圖）及び参考品を鑑賞させて、座蒲團圖案的構成・配色・染模様・織模様等に就いて知らせる。

2. 圖案的資料及び構成に就いて、考案を練らせる。

3. 輪廓を畫かせる。

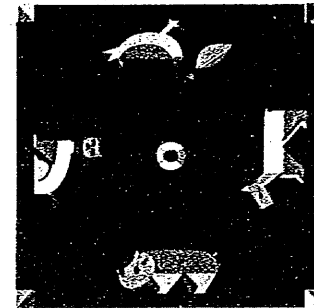
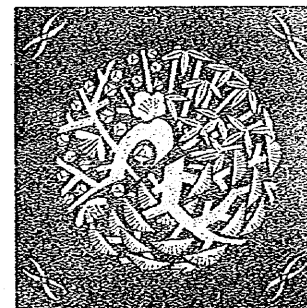
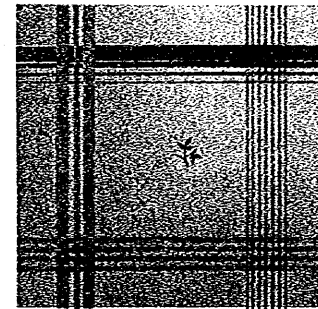
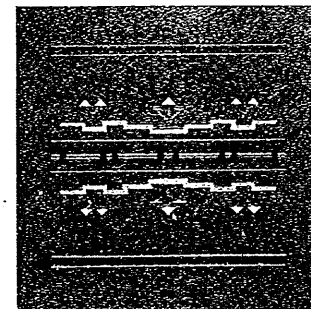
4. 配色を考へて仕上げさせる。

備考 1. 第四十二圖上左は、模様を水平に配列し、強い色調の配合をしたもの、上右は縞模様で周囲を圍み、鼠色を基調としたおだやかな配合のもの、下左は、模様を中心に置き、異色調の色彩をやゝ淡めて調和を圖つたもの、下右は、周囲に沿つて模様を置き、強い明暗の配合をしたものである。

2. 題目を豫告し、實際に用ひられてゐる座蒲團を見て來させ、考案の参考となさしめるがよい。

3. 圖案的資料・構成・配色等の参考品をなるべく多く見せて、考案の参考にさせるがよい。

4. 色紙に畫かせてもよい。



第四十二圖（女第十四圖）座蒲團

第 三 學 期

第十五課 靜 物 寫生畫 三時間

要旨 靜物を畫かせて、構圖・觀察・表現の力を高める。

準備 靜物。

指導 1. 第四十三圖（女第十五圖）を鑑賞させ、構圖、質の表現、色調等を味はせる。

2. モデルを、適當な場所に、よい組合はせに配置させる。

3. モデルの特性・形狀・明暗・色彩を觀察し、構圖を考へて、輪廓を正しく取らせる。

4. 任意の方法で、手順よく仕上げさせる。

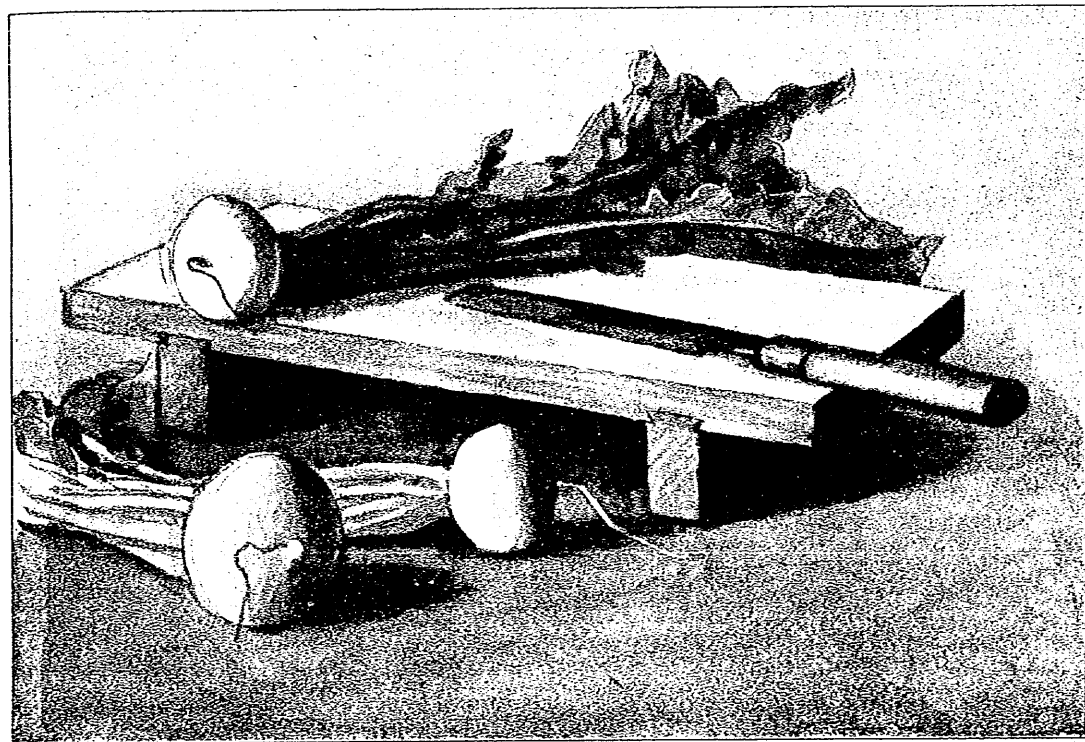
備考 1. モデルは、野菜・果物・花・魚介・器物・玩具等の中から適當なものを選択して、しつかりと畫かせるがよい。

2. 野菜の葉の如き變化し易い部分は、なるべく初の時間に畫くが便宜である。

3. モデルの選擇に當つては、その取舍はせ、形狀・色彩に注意させるがよい。

4. モデル・桌面・背景等の色彩・調子に注意して畫かせる。

5. モデルの保管に注意を要する。



第四十三圖（女第十五圖）靜 物

第十六課 レッテル 図案 三時間

要旨 レッテルを圖案させて、意匠を練り、應用力を養ふ。

準備 参考品。

指導 1. 第四十四圖（女第十六圖）及び参考品を鑑賞させ、レッテルの用途、着想、構成等に就いて知らせる。

2. 任意の題材を選ばせ、資料及び構成に就いて考案を練らせる。

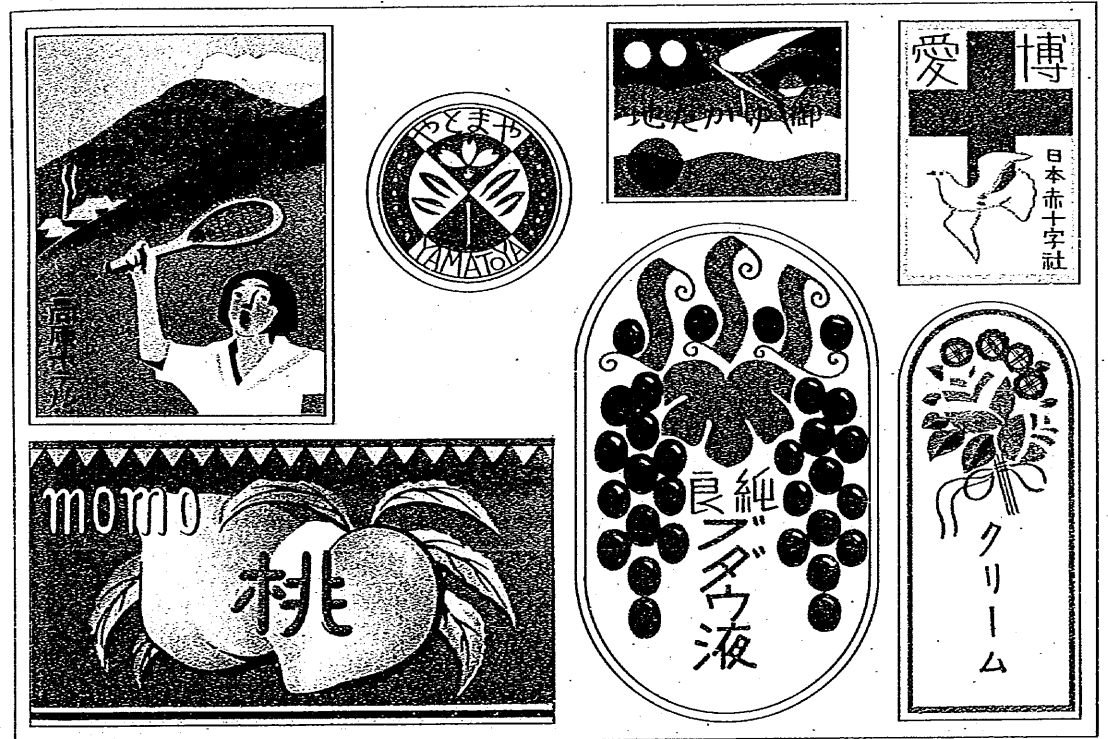
3. 輪廓を畫かせる。

4. 色の配合を考へて、仕上げさせる。

備考 1. 題目を豫告して、實際に用ひられてゐる種々のレッテルを蒐集させ、鑑賞及び着想・構成の参考に資するがよい。

2. 時宜により、色紙を使はせてもよい。

3. 時間のゆるす限り、幾つも畫かせるがよい。



第四十四圖（女第十六圖）レッテル

第十七課 食 器 圖案・用器畫 四時間

要旨 食器を畫かせて、考案を練り、製圖の力を高める。

準備 參考品。

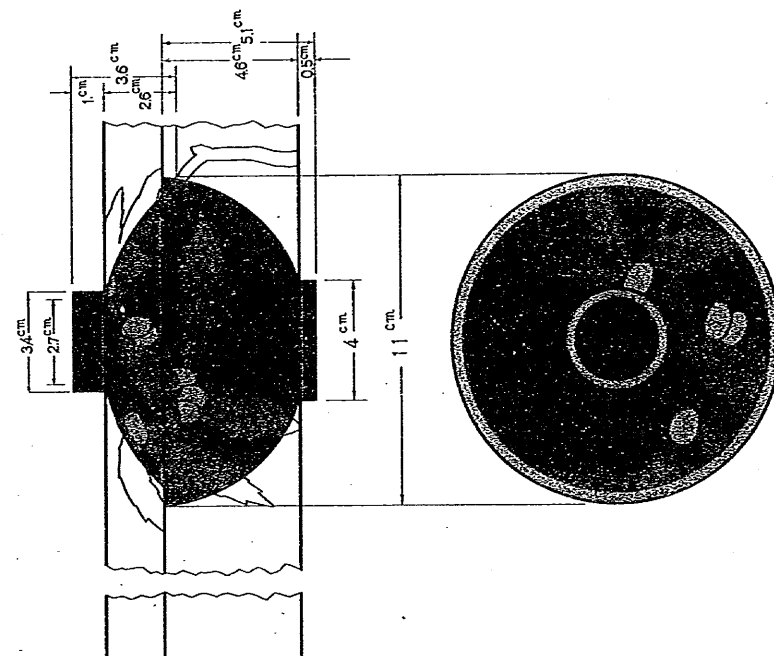
- 指導 1. 第四十五圖（女第十七圖）及び參考品を觀察させ、形狀、並びに正面圖と平面圖との關係、曲面をなすものの周圍に置く模様の畫き方等に就いて知らせる。
2. 用途・材料・製作法、及び形狀・裝飾等に関する圖案の要件を明らかにする。
3. 題材を選ばせ、考案を練らせる。
4. 圖の大きさ、製圖の順序・方法等を考へて、淡く輪廓を畫かせる。
5. 下圖を確實にした後、仕上げさせる。

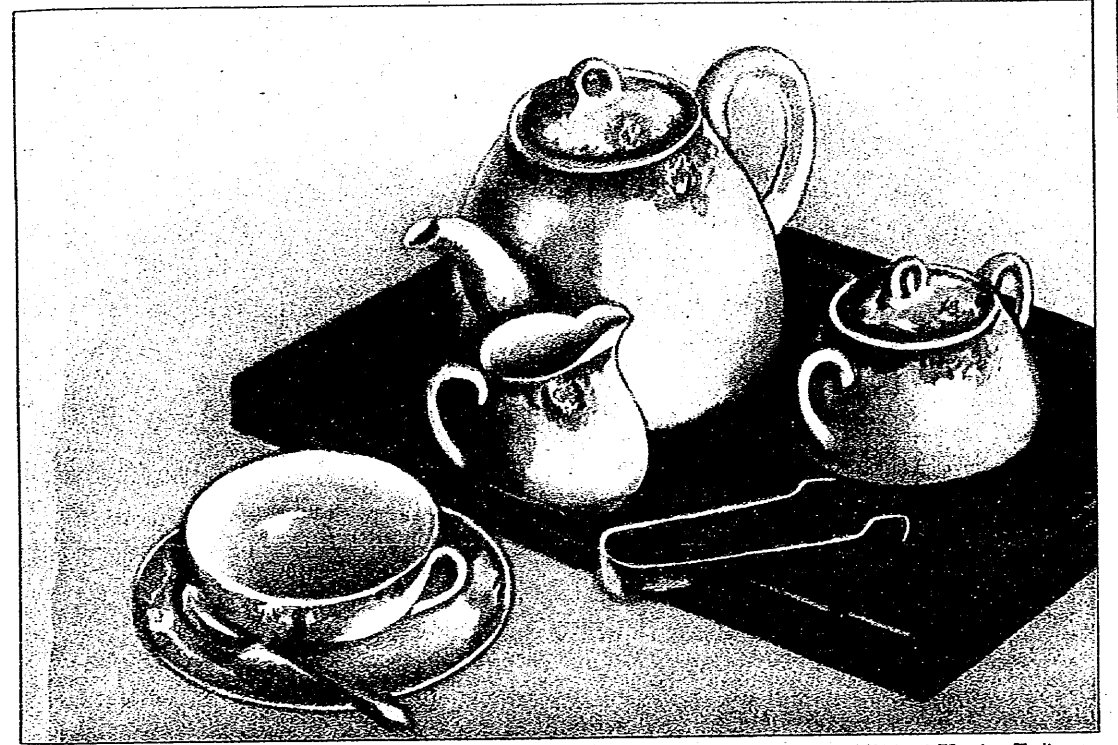
備考 1. 第四十六圖は、參考として紅茶器セットを示したものである。

2. 食器は皿類・鉢類・碗類等の中から、任意のものを選んで畫かせるがよい。
3. 形と模様とが、よく適合するやう注意させる。

碗

1/2





第四十六圖 食器 其の二

印刷所 凸版印刷株式會社

東京市下谷區二長町一番地

印刷者 井上源之丞

凸版印刷株式會社
東京市下谷區二長町一番地

著作權所有 發行者 文 部 省

昭和十年三月二十四日發行
昭和十年三月二十日印刷
(非賣品)

k141.71-8-1

